

藩翰譜續編

七上

壹

池田 浅野 前田 京極

黒田 有馬 山内 堀二家

化

庫	文	閣	内
五	三		和
五	〇		書
函	七		
九	三		
架	冊	號	類

228 閣

内閣文庫	
番號	和 30794
冊數	22(13)
函號	155 62

目錄共廿二



以藩翰譜續編卷之七上

記錄御用所

伊豫守 細政
松平相模守 光仲

池田信濃守 政言
松平壹岐守 仲沈

池田丹波守 輝録
松平河内守 清定

安藝守 細長
淺野式部少輔 長照

宮内少輔 長賢
淺野主 鈴長 寔

淺野内 匠頭 長矩

附 系議 綱紀
前田米女 利昌

松平大藏 入輔 平甫
前田右近 大夫 利菴

松平飛騨守 利明

佐中守 高豊
伊勢守 高盛

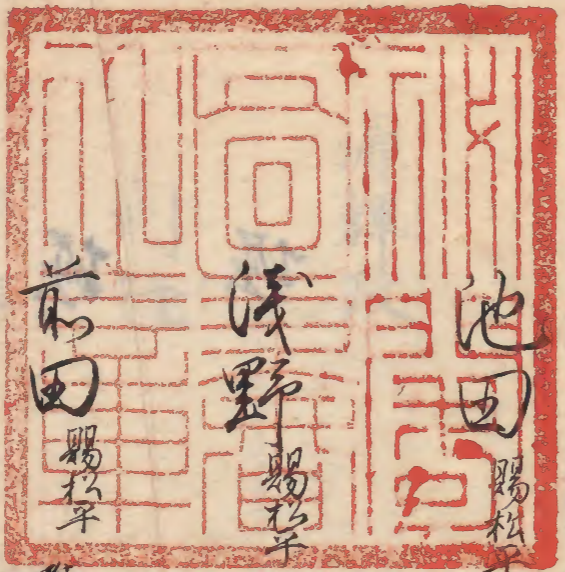
壹岐守 高通
佐後守 高明



右衛門 佐光 之

黒田甲斐守 長重

黒田伊豫守 長清



前田 賜松平

浅野 賜松平

池田 賜松平

有馬

中務大輔頼元

伊豫守豊範

兵庫頭氏倫

山内

賜松平

古佐守豊昌

内山内大膳亮豊明

山内遠江守豊産

堀

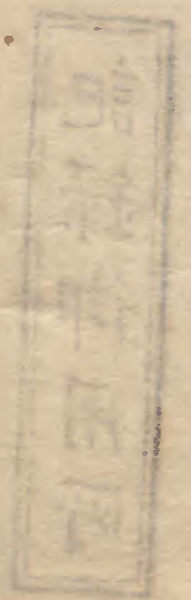
周防守親貞

堀

丹後守直利

長門守直依

飛騨守直良



池田

源輝政

利隆

光政

女子三人

堀田下總守正仲室
許嫁金森出雲守頼時早世
本多中務大輔政武室

輝甲

新八郎

早世

女
土松
山三所
政之助
早世

恒行 初所 敬高
池田聖前守政之養子

吉政 初名政孝
岩千代備前守從四位下 元禄五年十二月十五日叙任
同八年九月廿九日卒十歳 法名寂照院靈鑑普明

軌隆 主膳 勝千代
初名政助

政晴 善太郎

依病龍居
幸保五年三月四日卒年四十一
政隆 上倉田三長養子

丹波守輝録養子
軌明 采女

松平長門守吉元室
松平土佐守豊房室
立花飛驒守鑑任室

内匠頭政倚養子後歸
輝言 安之丞

錢之助 早世
女子六人 早世

政倚養子後歸

政順 松平三左衛門
德千代 正千代

女子

實永六年九月廿九日卒年五

綱政養女

綱政 太郎 三左衛門
初興輝

繼政 峯千代 主稅
初保教

宗政 峯千代 茂十郎
初尚政

侍從伊豫守從四位下
承應二年十一月廿三日叙任
元禄九年十二月五日左近衛
權少將
正徳四年十月廿九日卒七十
七歳
法名曹源寺湛然德奉

侍從大炊頭從四位下
正徳五年四月五日叙任
延享元年十二月十一日左近衛
權少將
寶曆二年十二月六日致仕
同五年二月廿六日剃髮號
空山
安永五年二月八日卒七十
五歳
法名保國院鐵叟空山

彈正大弼從四位下
元文五年十一月十一日叙任
寬延元年十月十八日改伊豫守
同年十二月廿日侍從
明和元年三月十四日卒四十歳
法名壽國院豊山延祥

女子四人

本多下野守忠平室
大猷院殿御養女
柳原利部大輔政房室
中川佐渡守久恒室

女子

實主膳軌隆女
一條關白兼香公室

政喬 主稅

實和泉政純女
一條關白道香公室
家人 池田和泉其養子

女子

女子二人

政純

長子代 豐次郎 和泉

家人 池田玄蕃某養子

治政

初 敏政 新十郎

從四位下侍後兼内藏頭
明和元年九月十一日叙任
寬政二年十一月廿七日左少將
六年三月八日致仕七月十八日卒
文政元年十二月十九日卒五十九

政久

新里郎本之丞

政芳

飲之進 飲次郎

政會

鍛冶之助

正德四年九月十二日卒

女子

丹波守政暗室

軌明

采女

實主膳軌隆二男依病歸家

女子二人

一人早世 許嫁松平雅之助長昌

長寛

護之進 初政長

相良越前守福將養子

女子二人

柳原式部大輔政敦室

政言

初 恒能 称池田 左門

信濃守後五位下
寬文九年十一月廿五日叙任
元禄十三年八月十九日卒五十九歲
法名天珪院性月自光

政倚

初 政熙 竹之助 内匠

内匠頭從五位下
寶永六年十月十五日叙任
元文三年二月十六日致仕
延享四年七月四日卒七十歲
法名禪通院蘭溪良秀

女子二人

山内主膳豊清妻 宗家家人 土倉市正一除妻

輝言

安之丞 多宮

實軌隆二男依病歸家

政方

兵部

實池田織部由利二男
信濃守後五位下
元文四年十二月十六日叙任
寶曆十年三月十四日致仕改
大内記
安永元年七月廿一日剃髮歸
長閑齋
寬政三年十二月十九日卒七十九歲

女子二人

京極伊豫守高玉室
大關因幡守增備室

政香

春五郎 兵部

政直

陽助

内匠頭後五位下
寶曆十一年十二月十八日叙任
明和五年八月廿五日卒二十
八歳
法名圓海院玄知禪哲

實政方二男
信濃守後五位下
明和五年十二月十八日叙任
天保十二年八月廿六日叙任
文政五年八月十六日卒年七十三

政直

陽助

女子三人

内藤出雲守忠見室

女子

四辻宰相中將公萬卿室

政養

陽助

内匠頭後五位下
寬政七年十二月十六日叙任
文政二年七月三日卒年四十八

政長

武三郎

女子

長業

慶太郎

池田後守長惠養子

女子三人

横田主税貞松妻
酒井三郎忠欽妻
八木豐太郎補古妻

島津式部少輔久般妻
京極大膳高厚妻

季農

權三郎

本間佐渡守季道養子

女子二人

酒井左門忠啟妻
井戸右衛門弘俊妻

政宣

右門

池田吉十郎長置養子

女子二人

池田織部直好養女

某

辨之助

早世

輝廉

鉅之丞

主税

大隅守後五位下
元禄十五年十二月廿一日叙任
寶永三年九月八日卒于殿
法名通仙院淨圓自的

池田百助賴完妻

教方ノリミチ 隆之助

池田采女政朗養子

女子

逸見熊次郎長祥妻

女子

内藤盛次郎正名妻後離別

政貴タカ

角次郎 改賴功 池田百助賴完養子

女子三人

酒依清子高信與妻 鈴木俊藏和政妻

依田長次郎守甫妻

某

辰之丞

早世

女子二人

共早世

某

興五郎

早世

某

豐久

早世

某

仙武

早世

女子四人

宗家家人

池田近江長仍妻

山内遠江守豐産室

松平市正忠庸妻

一人早世

政長チカ

善之助 德十郎 藤右衛門

繼相摸守家人鶴殿大隅 某家 長

輝録テリ

初政倫 池田 八之丞 主稅助

丹波守位五位下

延寶元年十二月廿八日叙任

正德三年十二月廿八日卒六十

五歲 法名靈樹院古巖全宗

政晴ハル

初信正 善太郎

實主膳軌隆長男

丹波守位五位下

享保三年十二月十八日叙任

寬延元年九月十一日卒四十

五歲 法名隆興院雲嶽宗觀

政負ツグ

泰太郎 伊織

中務少輔位五位下

寶曆三年十二月十八日叙任

明和四年正月廿九日卒三十

一歲 法名承德院佑邦宗賢

晴宣ハルノブ

永次郎

女子

甲斐壯兵部正堅妻

政以マサ

源之助 修理 後長惠

池田筑後守政倫養子

女子二人

毛利甲斐守綱元室 瀧川儀大夫一宗妻

政良 ヨシ 豊之助

安永三年五月十九日卒十六歳

某 秀次郎 早世

政峯 タカ 巴三 早世

寛政元年二月十五日卒二十歳

女子 竹中厚之進元智妻

政恭 キヨ 永次郎 初之進

山城守從五位下
寛政三年十一月廿七日叙任

政彌 ナガ 永次郎

初晴宣
寶政晴三男

丹波守從五位下
明和五年十二月十八日叙任
安永五年七月廿九日卒三十
五歳
法名持光院觀海惟聞

忠雄 タカ

光仲 ミチカ 勝五郎

相模守
寛永十五年十二月晦日從四位下侍從
承應二年十二月廿八日左近衛權少將
自享二年六月廿一日叙任
元禄六年七月七日卒六十四歳
法名興禪院俊翁義剛

仲政 勝三郎

美濃守從五位下 正保三年十二月晦日叙任
慶安二年十月十七日卒十八歲

綱清 初名輝高 新五郎

侍從伯耆守從四位下
寬文元年十二月廿六日叙任
元禄八年十二月十六日左近衛
權少將
同十二年五月廿五日致仕
正德元年七月四日卒六十
五歲

女子

吉泰 初名明 長吉 勝五郎

實壹岐守仲澄嫡男
侍從右衛門督從四位下
元禄十三年十一月十日叙任
正德五年十二月十八日左近衛
權少將
享保十四年閏九月廿一日改
相摸守
元文四年七月廿三日卒五十三歲

宗泰 初名泰 長吉 勝五郎

侍從出羽守從四位下
享保十六年十二月八日叙任
元文五年正月改相摸守
延享四年八月廿日卒三十
一歲
法名大廣院義山衍隆

法名清源寺良宗常溫

法名天祥院機雲衍應

女子

許嫁松平丹後守宗教平

女子

實池田權之助政撫女
松平修理大夫吉武室

澄古

二郎四郎采女
伊織 造酒

實仲澄三男
佐渡守從五位下
享保八年十二月十九日叙任
同十二年十月七日卒三十四歲
法名徹心院義峯淨透

治恕 七口 鶴五郎

侍從右衛門督從四位下
安永八年十二月五日叙任
天明元年七月十一日卒十七歲
法名孝得院本然自性

早世

女子 早世

治道 三子 岩五郎 秀三郎
初馬智

從四位下侍從兼相摸守
天明四年正月廿一日叙任
寛政十三年五月六日卒三十一歲

女子

重寛 六子 勝五郎

初仲穆 重穆

侍從相摸守從四位下
寶曆九年十月廿一日叙任
安永二年十二月十六日左近衛
權少將
天明三年十月十八日卒三十

八歲
法名松山嶽院祥雲洪澤

女子

澄時 十子 龜丸 主計

修理亮延俊養子

女子二人

駒吉 松平上總介奇政室
松平左兵衛督信成室
早世

澄教 連之助

主計澄時養子

吉泰 十子 長吉

伯耆守細清養子

仲澄 ナカニ 長吉
初仲時

壹岐守從五位下
寬文五年十二月廿七日叙任
元禄十六年九月六日致仕
享保七年六月二日卒七十
三歳
法名成徳院建山道空

仲央 ナカ 長八
初澄猶

造酒正從五位下
寶永三年十二月十九日叙任
後改豐前守攝津守
寶曆三年正月十一日卒六十二
歳
法名皮暇院活空徹玄

仲庸 ツツ 達次郎 右膳
初澄賣

攝津守從五位下
寶曆三年十一月十八日叙任
同八年六月十二日卒四十九歳
法名青章院雲外弘庸

澄古 ニ 次郎四郎

女子

陰律 カゲ 千之助

九鬼長門守隆昌養子

定賢 サダカ 式部

河内守清定養子

央章 アキラ 金三郎

松平主水正定温室

魚之助 イサノタケ 早世

矩美 ノボリ 隼人

柳生備前守俊方養子

央堯 タカ 縫殿助

継宗家家人鶴殿大隅某家

久利 キク 鉄次郎

継宗家家人池田大藏某家

庸熙 ツツ 市之丞

松平伊勢守喜以養子

澄延 ニ 幡吉

飛騨守從五位下
明和二年十二月十八日叙任後
改攝津守
同八年九月十一日卒二十三歳
法名賢徳院英山衍雄

延俊 ニ 慶次郎

實仲庸二男
修理亮從五位下
明和六年十二月十八日叙任
同八年三月廿六日卒二十歳
法名仁厚院礼容玄智

澄時 ニ 亀丸 主計

實相模守重寛三男
天明五年八月十三日卒十九歳
法名真常院本覺淨光

延俊 慶次郎

女子 勸修寺右中辨經逸室

澄教 連之助
推号 後澄雅

實重寛四男

往下里前守實政七年七月七日叙任
元文四年十月廿六日就任實政二年四月三日撰注行
口七年九月廿六日就任天保十二年六月廿四日卒三十七歲

清定 辰之助 教員

定賢 式部 初年之助

定就 隼之助

河内守後五位下
元禄十四年十二月十八日叙任
實永六年四月十一日賜御家號
享保三年九月九日卒三十六歲
法名桂巖院心月淨空

實壹政守仲澄四男
近江守後五位下
享保三年十二月十八日叙任
元文元年九月七日卒二十七歲

下野守後五位下
元文二年十二月十六日叙任
延享三年七月五日改甲斐守
寶曆元年四月十八日改兵庫頭
明和五年四月十六日致仕
寛政二年二月五日卒六十九歲

法名了義院自得淨澄

法名廣暉院文英淨号

清勝 萬之助

池田權之助政撫養子
元禄九年七月廿九日卒無嗣家絶

定信 新助

宗家家人
和田遠江信時養子

之茂 能登

宗家家人
池田日向之壽養子

清弥 辨之助

初為久留島伊豫守通政養子
稱主殿通孝依病歸
稱池田新藏享保元年十一月六日卒二十九歲

女子

宗家家人
津田將監之武妻

就高 早世

定得 和三郎

大隅守後五位下

定常 錢之助 恒次郎

實池田半藏政勝二男

女子

從五位下僧殿頭
天明六年十二月十八日叙任

明和五年十二月十八日叙任
安永二年七月九日卒二十
二歳
法名瑞泰院善倫為寶

享和元年十二月廿四日叙任
文化十年八月廿五日叙發早山
天保四年七月九日卒年六十七
法名瑞堂院早山元叟
女子二人 青木甲斐守一貞室
一人 甲子世

池田 賜松平

左少将兼侍从守源總政ハ新太皇少将光政の嫡
男のり光政寛文乃末子致仕ハ天和二年乙亥夏
七十四歳一々卒一代之名を此口碑に傳ふる
とまゝくふくす總政乃母ハ平中務大輔忠朝が
女とく天樹院殿の法復ありしハ大相國家の
湯外孫女ありしハ湯ありしにまゝく總政二歳
にありし時所祈しめて湯復せしき湯あり

二月畠山よりゆきまのり 安永五年二月八日卒七十一 子茂

子茂十郎尚政ナヲ 元文二年三月廿八日五十一 子茂

系一 杉本 五年十二月之後 時後四位下

に叙し 河津字楊りり 洋正大弼宗政ニナ 後ニナ 子茂

寛延元年十二月侍従り 但し 寛曆乃し 子茂

家つ 明和元年三月十四日卒 次四十五歳 子茂

新十郎敏政ニナ 宝曆十二年 子茂 子茂

卒せし 年の五月十日に遠行 子茂 九月十一歳

十一日之後 従四位下侍従兼同花院に任じ

河津字楊りり 信政ニナ 子茂

信濃守源の政ニナ 子茂 子茂

文九年六月 子茂 子茂

十二月 子茂 子茂

乃地わり 子茂 子茂

卒し 五十三歳 子茂 子茂

天和二年 五月十五日 子茂 子茂

十四日建前賜りり宝永六年十月敕書して内
政に任ぜり政倚り嫡男継治し御政舎ニカカ子をありし
て外り子ふりりか池田主格執隆御政の次男が二男
采女執明ウキアを娶ひて子とて享保六年十一月十五日
けしとて人集せり乃ち病ありて死に
かきとてあしはとて父執隆がもたかて
其の妻安と忠輝ニル言をなしあひしよとて病
者ありともとてまじりてやとて元文二年八月

サ甲池田藏前由利が二男且政方ワシリニサを養子と
あくふ三年二月十六日改仕してあをゆりふ

延享四年七月甲
七十九年七月

政方ニカミナの家より長りれり年の十一月

十五日相得し元文三年家法ぎくたれり四年

十二月敕書して信濃守少将と宝暦十年三月

改仕し大内親に安永元年剃髪して長閑と稱

しとて子とて部政番と宝暦七年九月初めとて

元永とてあはれりり十一月十二月後五位下に叙

内匠以仁下明和元年八月廿二日卒
卒次子おろしおげき湯助政直（一カナラ）あり
十月廿九日遺領を賜り（廿二）十二月敕許して
信濃守に任じ

丹波守源輝録（ラヒトシ）ハ（池田と称す）光政乃二男あり寛文
七年十月十五日（一カ）お福に任じ（一カ）十二月
年（一カ）領乃地わりし（一カ）延宝元年の冬敕
許して丹波守に任じ（一カ）福元年七月五日其領の

礼し加りりお福に任じ十五年十二月十五日湯養者
乃事なかりり正徳二年七月廿二日（一カ）なりりて
きりりゆふゆ授て十一月廿六日卒以年六十八
其の子大隅守輝廉（ラヒトシ）なりり（一カ）卒（一カ）けし（一カ）五年叙
（一カ）延宝三年九月廿日其年（一カ）池田主権朝隆が長男長太郎
卒し其領の男子みふ早世す
政暗を（一カ）ひ（一カ）嗣（一カ）なりりあり（一カ）四年二月十九日輝
録の遺領をなかりり六月朔（一カ）ありてお福に
享保三年の冬敕許して丹波守に任じ寛延

元年九月十一日四十五歳に〜卒次嫡男侍職
政員ニサカズ〜同十月五日家を法皇の室暦二年
九月十日〜〜〜十二月教諭〜中務
少輔〜任〜同四年正月廿九日二十一歳〜卒
〜其の子永次郎政弼ニサカズ実ハ也其の年三月廿日
家継〜四月初〜〜〜
五年位下丹波〜〜〜
卒の年二十五男子三人早世〜〜
〜四男永次郎

政房二葉に〜九月廿二日父〜つぎに好〜八年
四月初〜進政ニサカズ〜
左少将兼相模守源の光仲ナカハ急議忠雄タカ乃嫡男あり
寛永九年二葉に〜〜家子ニサカズ〜十五年正月
〜〜〜十二月廿九日〜
所諱乃字揚り大左文字の所相模守〜
十九年十二月位下乃侍後〜叙任〜少将
〜〜貞享二年六月廿一日被任〜元禄六年の

七月七日卒ハシ嫡子新五郎德清母紀伊大納言殿

頼宣ハ
の正事乃由息女徳川殿の御孫女あり明暦二年二月

廿一日十葉にハシ寛文元年十月

廿一日之後ハシ御律字揚りハシ従四位上ハシ叙小侍後

に伊予伯耆守をハシ父の朝長致仕の日家をつま

夷長吉仲時ハシ不備ハシ西領をわくハシ御孫女ハシ元禄八年

左少将ハシすハシみ十三年五月に致仕ハシ正徳元年七月

四日年六十ありハシてうせぬ子ハシふりハシ十カズミハシ仲時が

嫡子長吉をハシ居ハシふハシ家ハシつハシ長吉をハシ元禄

九年正月廿八日ハシをハシ拜福ハシ御孫女ハシ時叙文

池田勲負清定ハシにハシ留ハシ地をわくハシ御孫女ハシ乃冬

従下の四位ハシ侍従兼右衛門督ハシありハシ吉明ハシとハシか

ありハシ後お孫ハシ吉泰ハシ元後乃武父ハシことありハシ正徳五

年のみハシ左少将ハシうハシつりハシ元文四年七月卒ハシ五十二葉

其の子勝五郎宗泰ハシ享保十六年十月廿六日ハシあり

てハシ元系ハシ十二月元後ハシ従下四位の侍従兼出羽守

に叙任し元文四年九月七日又りつぎ國事とて
くこと九年にして卒は年三十一嫡子勝五郎仲穆
年わつろふ二歳ありしに延享四年十月十二日送
領浅幡りり家老二人を家老堀田相模ちがもふめ
て勝五郎知稚乃身にく二箇國を領す汝ホ
し心を用ひてふりしをよきくしとて信下され
きふ宝曆九年四月朔よりとてとてとてとてとて
つと十月廿一日元禄して従四位下信下ありお換る

をかぬ所諱字を賜りて重穆とありしは又
宗寛と田安中納言殿の正室乃所息如小登ひし
正安永二年乃所左少将す
天明年十月十八日三十八歳に
卒し嫡子右衛門督治怒いささたちてう勢
ありし二男秀二郎嗣とありことし十二月四日
家つとく十め日にしとてとてとてとてとて
享和四年正月廿一日元禄して従下の四位下信下

兼相摸ちに任し御偉仍字を賜りて治道
と名乃ふ十九年

其後源仲澄ナカノ光仲の二男あり寛文三年

十月廿六日ノ相賜しナカノ五年

其後教養して貞享二年六月廿一日所領

りノ因幡伯耆の目ノ嫡子長吉ヤス本宗を

すノ後元禄十五年閏八月七日所領地

りノりノあノ十六年九月廿一日

致仕し享保七年六月二日七十二歳

卒し次男長八ナカノ仲央ナカノ元禄十五年十月廿八日

めノ見ノなり家ノ乃ノら寛永三年

十二月従五位下造酒ノ任ノ實曆三

年正月十一日卒ノ六十二歳ノの子右膳仲庸ナカノ

元文二年十一月廿一日ノ評賜し父

かうせし年の三月十二日造領賜り十二月

叙爵して授けり任し實曆八年六月十

二日卒の年四十長子権右澄延スミケと八月
廿日家を信ずカ松明と年十三年十月十日卒
めく見系一明和二年乃を教爵して飛騨守
小任後持はちにおおじ死六年卒九月十一日次二十二子
あつりしおはせカ次郎延俊を嗣と十一月
月四日延俊カ一送領を十一月十六日卒
て十一月卒十一月十二月後五位下修理亮
り教任カ松明と年卒二月廿六日延俊

あふと一あにカて六月十四日相模守重寛カ
二男主計澄時スミトキして家つがせと名天明四年
閏正月十六日カ見系カが松明と
五年カ世をカきれば八月十三日持の身
連と明澄教嗣とカの年卒カ十月九日
送領をカ

河内守保清ホクヨシ定光仲の四男とカ池田頼貞
とカ福十二年五月をカ右邊守カ春家

つぎつ時雨領の地さきあつて

因幡伯耆兩國のしり
松野田一万五千石

七月より八月見事つて何れも十四年十月

教書つたり宝永六年四月右邊の結者恭二

こひしにりて池田をあらはれ松平と稱す

享保二年九月九日二十六年にりて卒の楚の

子式部定賢サカ実いき後ち仲澄ナカズミが四男あり松野

も二年閏十月九日遠領をりて八月十二日

つてお徳つて十二月教書つて近江に任じ先文

元年九月七日卒の二十七歳楚の子年つて初定

就十月廿九日又りつて十一月十日にりて

つてりつて二年の冬教書つてりて

任ト後甲斐又々庫サカ以明和五年四月十六日没仕を四十息男

和三郎定得サカおとつて正月より先くつて家

ひぎつて十二月後五位下大隅ちり任じ安永二年

七月九日卒の廿二歳子おとつてりて支族池田

半蔵政務つて男孫と初定常サカを長子定常九月

十八日家守つて天明五年二月十五日とてくく人
系す 十八歳

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including names like 宗任 and 宗成）

浅野

源長政 ナガサキ

幸長 ユキナガ

長晟 ナガセキ

長治 ナガチ

光晟

綱晟

綱長 ツカ 岩松

安瓶云守
延寶二年十二月廿七日後四位下侍後
寶永五年二月十一日卒五十歲
法名顯妙院玄奧日統

長澄 スミ 大助

式部少輔長照養子

女子

本多能登守忠常室

吉長 岩松

備後守後四位下
元祿八年十一月四日叙任
寶永五年十一月朔日退任
同年十二月十八日侍後
享保十七年十二月廿日左
近衛權少將
寶曆二年正月十三日卒七
十二歲
法名體國院相巖宗隆

某 數馬 早世

女子三人

小笠原右近將監忠基室

宗恒 ツ子 仙次郎 岩松

從四位下刑部大輔
享保十六年十月廿三日叙任
後改伊勢守安養守但馬守
寬延二年十二月十八日侍後
寶曆十三年二月廿一日致仕
天明七年十一月廿四日卒七
十一歲

女子三人

許嫁松平大膳大夫正甫正甫
平嫁相馬因幡守德胤
松平如賀守綱紀養子女
許嫁毛利右京元矩元矩平
許嫁松平越中守定輝定輝
平嫁阿部隱岐守正直

女子

寶宮内少輔長賢女
小笠原左京大夫忠總室

重晟 善次郎

從四位下上総介
寶曆八年十月廿八日叙任後
改安養守
明和元年閏十二月十八日侍後
寬政三年 月 日任少將
享保十七年 月 日任後
文化十年閏十一月十三日卒七十一

長孝 タカ 式部 後忠昭

水野和泉守忠任養子

長員 カハ 左京

兵部少輔長高養子

女子

許嫁松平隱岐守定功定功卒

九條左大將師孝卿室
松平出雲守義方室

某
仙次郎山右松
早世

齊賢
時之丞 善次郎
徳田下 右京大夫
寛政元年三月廿三日叙任
同治元年 月 日改守松守
文化元年 月 日少将
天保元年十月廿一日卒年五十六

長從
後快馬
森河内守俊紹養子

女子四人
水野式部少輔忠光室
兵部長裕室
新藤南都大進不味利
初元伊賀守知朝室

長懋心
喜之助右京

女子二人
小室原吉山守長孫室
伊東修理大夫祐民室

長尚
松千代 又六

實紀伊守光晟二男
大猷院殿御養女
實心松中納言利常女
和泉守俊五位下
萬治元年十二月廿七日叙任
寛文六年七月廿八日卒二十三歳
法名浄心院願誓日容

長照
長藏

實光晟三男
母同長尚
式部少輔後五位下
寛文六年十二月廿八日叙任
後改因幡守

齊肅
勝吉 初名長朝
徳田下侍從兼安藝守
天保三年正月 日嗣封三年七月廿三日叙任
土年正月 日少将
安政五年 月 日改仕改備後守
明治元年正月十二日卒年五十二

女子七人
上杉神五大河齋定室
秋元大膳亮久朝室
持隆清口駒之助直諫早世
松平出雲守直諫室
清口伯香守直諫室
細川越中守齋護室
松平遠江守忠平室

長駿
友吉
又五郎 早世

女子
宗掃磨守義和室

長訓
子之進為五郎
近江守長容養子

懋績
尚之丞 藏人 内記
初忠敬

懋昭
徳三郎 外衛 中務
初忠烈 式部

長興
喜代植
近江守長訓養子

正桓
浅野讚岐 養子
元次郎
阿部主計頭正方養子

女子
峯植
魚井隱岐守監養子
浅野守天孝
上田重造妻

女子三人
峯植
浅野守天孝
上田重造妻

女子
虎松

長澄
大助

實輝正大弼綱晟二男
土佐守從五位下
貞享二年十二月廿八日叙任
享保三年八月四日卒四十八歳
法名天柱院霖應熊山

嫁松平伯耆守資承

長包
友之助
初長女方

慶熾
定吉 定之丞 善次郎 初名長裕
徳田上侍從兼上陸介
嘉永四年三月 日叙任
安政五年 月 日改守松守
同治元年九月十日卒年二十三

女子
夫

茂長
子之進為五郎 初長訓後改長訓
安古京長穂長男初嗣近江守長容後任近江守
安政五年 月 日入嗣宗後
叙從四位下侍從兼安藝守
萬延元年 月 日任少将
明治二年正月廿四日改仕
五年七月廿六日卒年六十四

長勲
喜代植 為五郎 初長興茂勲
安古京長穂長男初嗣長訓後為近江守
文久二年十二月 日叙從四位下侍從兼紀伊守
光治元年四月 日任少将
明治二年正月 日任安藝守三月 日叙從三位
任權中納言六月 日叙正三位

女子
宗長懋女
宗極對馬守高義室

長厚
萬五郎
承近江守長興後
浅野直興養子

守夫
浅野直興養子

榮植
浅野直興養子

女子
會吉

長經
撫三郎 又六郎

享保四年四月廿三日卒十三歳
家絶
法名鳳章院孝藏紹胤

元祿四年十一月二日致仕
寶永二年十一月十五日卒五十
四歳
法名騰雲院壁龍禪拔

女子二人

内匠頭長矩室
河鱈左少将李縁室

長賢

萬吉 民部
大膳

寶永七年九月廿八日賜御家號
兵部少輔從五位下
寶永七年十二月十八日叙任後
改宮内少輔
延享元年九月廿五日卒五十
二歳
法名大通院開翁紹函

長喬

鍋次郎 去番
舍人

兵部少輔從五位下
寬延二年十一月十八日叙任
明和六年十二月十二日卒三十
八歳
法名赤潤院德運仁龍

女子二人

安藝守吉長養女

長寔

主鈴

享保五年五月廿一日卒十歳
家絶
法名瑞麟院丹青末雲

長員

左京

實但馬守宗恒三男
從五位下近江守
明和七年十二月十六日叙任
文化五年六月十九日卒

某

英之丞

早世

女子三人

一條中納言兼香卿室
許嫁佐竹大膳大夫義務義格
卒嫁松平豊後守資訓
許嫁松平三左衛門政頼政頼
平許嫁水野日向守忠茂忠
茂卒許嫁本林越中守長生
長生卒嫁河鱈權中納言輝
季卿

毛利志摩守廣寛室

女子

許嫁松平主計澄時澄時卒
許嫁細川和泉守立禮離別
嫁戸澤上總介正親

重員

雅之丞

主殿

中川内膳正久忠養子

長容 カク

久米之助 左京
兵部

長訓

志進 為五郎
長訓 從五位下 近江守 美作守
安右衛門長徳長男
文政七年六月 日嗣封
安政五年 月 日入承寧家

長興

喜代植 為五郎 石見守
從五位下 近江守
安外衛 徳長男

某

元次郎 天

女子三人

二人 共天
長訓室

長厚子

為五郎 為五郎
從五位下 近江守
安藏人 徳長男
文久二年 月 日嗣
明治六年八月廿八日卒

和雷

太田京山城守光清室
初石河原守通泰子
茂野内記長孝男

長重

長直 チヲ

長友 トモ

長矩

又一郎

忠彦

内匠頭後五位下
延寶八年八月十八日叙任
元禄十四年三月十四日切腹
三十五歳
法名冷光院吹毛玄利

長廣

犬千代 大學

享保十九年六月廿日卒 五歳
今淺野大學長貞祖

浅野 賜松年
附 内匠長矩
主 鈴長寔
附 式部少輔長照

浅野 賜松年

附 内匠長矩
主 鈴長寔

附 式部少輔長照

侍従兼安藝守源綱長ハ彈正大弼總晟ハ嫡子幼

名を山松とシテ寛文十年四月廿二日ニ...

系ノ延寶元年二月廿六日父の遺領を承継シ

安藝國及ハ後後國の内 九月十八日所前小...

式あり 所前正恒の所傳乃字にぬらねはとあり

安藝守とほめとせしけり 是れ祖父光晟の創...

と格せしむ 二年後四位下に叙 侍従位下

宝永五年二月十一日卒年七十五嫡男岩松右長元福

元年六月十八日（一）元福（二）同日八年十二月

四日元福（三）御諱乃字（四）元福（五）位（六）後（七）

小教任（八）宝永五年二月廿六日（九）又（十）

侍従（十一）但（十二）享保四年甥又（十三）長（十四）

を早（十五）を長（十六）り（十七）か（十八）附（十九）

ら（二十）五（二十一）長（二十二）五（二十三）を（二十四）あ（二十五）

五（二十六）合（二十七）百（二十八）松（二十九）十五（三十）年（三十一）五月（三十二）十一（三十三）日（三十四）合（三十五）五（三十六）元（三十七）福（三十八）

長賢ナガカキ一（一）康（二）米（三）を（四）わ（五）り（六）石（七）二（八）方（九）松（十）明（十一）十（十二）七（十三）年（十四）の

冬（十五）少（十六）お（十七）わ（十八）り（十九）元（二十）文（二十一）四（二十二）年（二十三）正（二十四）月（二十五）十二（二十六）日（二十七）尾（二十八）張（二十九）宗（三十）春（三十一）郷（三十二）

沙（三十三）年（三十四）水（三十五）戸（三十六）殿（三十七）の（三十八）支（三十九）族（四十）

大（四十一）學（四十二）以（四十三）頼（四十四）貞（四十五）播（四十六）磨（四十七）右（四十八）頼（四十九）幸（五十）と（五十一）し（五十二）所（五十三）使（五十四）り（五十五）所（五十六）

と（五十七）し（五十八）位（五十九）の（六十）ひ（六十一）の（六十二）を（六十三）は（六十四）り（六十五）と（六十六）し（六十七）長（六十八）と（六十九）し（七十）つ（七十一）と（七十二）し（七十三）と（七十四）し（七十五）

十二（七十六）歳（七十七）宝（七十八）曆（七十九）二（八十）年（八十一）正（八十二）月（八十三）十二（八十四）日（八十五）所（八十六）領（八十七）廣（八十八）嶋（八十九）と（九十）し（九十一）卒（九十二）す（九十三）

嫡（九十四）子（九十五）岩（九十六）松（九十七）宗（九十八）恒（九十九）享（一百）保（一百一）十（一百二）一（一百三）年（一百四）九（一百五）月（一百六）初（一百七）と（一百八）し（一百九）あ（二百）り（二百一）侍（二百二）

謁（二百三）し（二百四）所（二百五）領（二百六）と（二百七）し（二百八）十（二百九）七（三百）年（三百一）十（三百二）一（三百三）月（三百四）廿（三百五）二（三百六）日（三百七）元（三百八）福（三百九）と（四百）し（四百一）位（四百二）下（四百三）

の四位刑部大輔後任歴を安撫する
但馬守にあつた寛延二年

十二月侍従にのり寛延二年三月七日家川きて

松平しんぺい十二月廿一日没仕す時三子三子

長次郎重晟アキヲ寶曆七年二月十九日あく

見系みけい對たいあくあく八年十二月廿八日え後

三子三子從四位しんりり教しん上しん総介しんにしん任しんすしん後安藤

父ちちの没仕しん乃すなはち家いへつつぎぎああくくめめのの初はちち年

侍従しんにしん任しんすしん

宮内少輔源長賢ナガノハ侍従總長ナガノガ二男にににああ少し將

長ナガノ長ナガノ也ナガノ宝永七年九月廿八日あめめてて拜まが賜たまを

その時長賢ナガノがナガノああひひにによよりりてて松平まつとと稱なすすふ

車くるまににあありりてて死しすす冬ふゆのの初はちち年ねん

にに任しんすしん後宮内少輔享保十一年五月十一日長賢ナガノ廣栄

ををわわりりてて三さん子しをを嗣ついでととすす延享元年九月廿六日あ年ねん五十二

一いつつ卒すすす十一月十九日あめめてて乃すなはちち湯次郎長喬ナガノ

にに遺領いりやうををつつぎぎにに長喬ナガノ實延二年二月十九日あ

して思ふを承り十二月從五位下を部少輔に叙任し
 時和六年十二月十二日卒と云々二十八男子あり
 しかば宗家の但馬守宗恒が二男を京長員を嗣とし
 して長員の時和七年二月四日家をけり十五日に
 のりてと云々していつり叙爵して近江守に任じ
 〇内通の源長矩表許兼表許采女正長友トモの嫡子の近室
 三年三月廿三日父が遺領を賜ひ五百石後磨因希穂の城四月七日
 襲封を謝し身新の時和と云々相賜しお好ま

八年の林叙爵をえ福十四年勅使の向ありて
 長矩登意の事と云々を承り二月
 十四日勅使の向に兼向ありしかば長矩を祇候せ
 して吉良上野介義央と闘争して長矩いりり
 多と云々たらより常せり力をぬき義央をこり
 かちりりとも梶川與忠を流相知と云々して終く
 平いをとりふふをよび義央とわづらよむゆい
 をれど其人よ子細をよづつといふあよ松のい

かひのれいとうきりさきひもよバ義央々宿所
 にホく〜てきりさきを辱〜ふりせ長雄は田村を京
 大夫建題にり〜あつき〜おふのせ〜河内使
 を下はき〜長雄松の富意をも〜辱中をも
 ともか〜の白刃をぬり〜こと〜衆狂〜す
 こと〜建題の家り〜死をもぬりり石領こと
 く〜汲ぬせ〜れぬ長雄は〜二十ある
 一朝のい〜りしを身をわ〜せ〜家を〜

かひのれいとうきりさきひもよ

世はけつ〜とあるは〜
 古き義央は官位といひ

年篇よりかひのれいとうきりさきひもよの上首に〜公武應對の礼成あつ〜さる事あり〜
 人もま〜り〜と〜い〜こと〜を〜のつ〜を〜る〜人〜を〜
 ぬ〜れ〜と〜事〜を〜も〜す〜人〜の〜こと〜を〜や〜り〜を〜幣〜を〜あ〜つ〜〜て〜ほ〜ら〜り
 若〜れ〜も〜因〜面〜ひ〜を〜種〜は〜生〜體〜剛〜に〜〜義央に〜お〜き〜く〜ら〜こ〜〜に〜あ〜り〜
 かね〜義央も〜と〜め〜より〜快〜ひ〜ひ〜わ〜ひ〜事〜に〜あ〜り〜を〜〜〜〜〜かち〜ひ〜り
 け〜れ〜ら〜る〜ひ〜ひ〜あ〜き〜〜〜と〜す〜る〜と〜を〜ひ〜〜〜〜〜た〜れ〜こ〜〜あ〜ど
 〜〜〜あ〜ら〜く〜〜〜〜ひ〜ひ〜事〜は〜長雄い〜〜を〜り〜に〜あ〜く〜ひ〜ひ〜く〜〜
 め〜ひ〜り〜も〜を〜ひ〜ひ〜と〜せ〜義央こ〜の〜ら〜ら〜の〜務〜を〜辨〜〜〜〜〜の〜り〜
 に〜あ〜く〜か〜え〜福〜す〜の〜年〜十二〜月〜十〜日〜の〜夜〜長雄が〜あ〜人〜大〜を〜御〜を〜自〜志〜な〜つ〜ま〜を〜
 め〜四〜十〜二〜の〜堂〜を〜む〜と〜ひ〜〜義央が〜あ〜ら〜り〜い〜り〜〜に〜あ〜人〜あ〜ら〜ら〜た〜く〜ら〜
 に〜を〜り〜し〜は〜あ〜〜義央を〜う〜ら〜た〜を〜せ〜首〜と〜り〜て〜救〜主〜の〜養〜〜向〜の〜ら
 め〜ホ〜み〜り〜ら〜ら〜た〜く〜あ〜ら〜公〜の〜罪〜を〜し〜ら〜の〜あ〜〜〜〜ひ〜志〜々〜さ〜ら
 事〜あ〜ら〜公〜の〜法〜を〜れ〜た〜る〜事〜あ〜ら〜は〜罪〜を〜あ〜ら〜
 ら〜れ〜る〜事〜も〜あ〜ら〜〜死〜を〜あ〜ら〜ぬ

式部少輔源長照ナガヲルハ後世紀伊守光晟ミツアキラリ三男那

ヲナガヲルヲ因幡守長治ナガハルヤナガハルノ子ナガハルトナガハルノ所生女實ハ

小松中納言利常トシノブの女ありと照寛文五年 寛文六年十二月教養ナガハル

延宝二年三月廿二日父が遺領を了すハ五子ハ後ナガハル國三河の地

元禄四年十二月二日致仕してそ子大助長沈ナガスミ

了ナガスミを以てナガスミ也沈實ハ正徳大弼 宝永二年十一月十五日

とナガスミ五十四年ナガスミ卒ハ長沈ナガスミノ子也綱長ナガスミガ

もとナガスミありナガスミ時天保元年二月十二日ナガスミあり

お福ナカヲルありナカヲル二年八月六日長照ナカヲルあり

ありナカヲル貞享二年乃ち従五位下公任ナカヲル

教任ナカヲル元禄四年父があつてナカヲル享保二年八月

四日所領の地ナカヲルありナカヲル卒ハ享保十一年ナカヲルの父が

長沈ナカヲル十月二日家つぎナカヲルの父の四月廿三年

十二日ナカヲルををナカヲル嗣ありナカヲル家統ナカヲル

領地をいふ事あり 主鈴源長寔ナカヲルハ後世公任ナカヲルの長沈ナカヲルガ

孝和の御孫保四年十月廿二日安藤高直が長所領の
 比割ありしに五万石ありしを分けて保五年
 五月廿一日十萬石ありしを分けて保五年
 家絶ししに西のいざなり
 かくし海あり

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

前田

菅原利家 トシイ

一世 利長 トシナガ

三世 光高 ミチタカ

二世 利常 トシツネ

某 太郎 早世

四世
綱紀 犬千代丸
初細利

母
大猷院殿御養女 貞承三年
實水戸中納言頼房卿女

某 久丸 早世

女子六人

實右近大夫利豊女
家人
長大隅守尚連妻
一人早世
松平安藝守吉長室
家人
前田對馬守孝資妻
一人早世
松平相模守土吉泰室

五世
吉徳 勝次郎 勝丸 犬千代丸 又左衛門
初利興 吉治

元禄三年八月八日
左近衛權少將若狹守正四位下
元禄十五年六月九日叙任
享保八年六月十五日改加賀守

左近衛權少將加賀守正四位下
承應三年正月十二日叙任
萬治元年閏十二月廿七日奉將
元禄六年十二月朔日參議
寶永四年十二月廿八日從三位
享保八年五月九日致仕
同年六月十五日改肥前守
同九年五月九日卒八十二歲
法名松雲院德翁一齋

同年八月十八日中將
元文五年十二月朔日參議
延享二年六月十二日卒五十六歲
法名護國院佛鑑法性

利章 富五郎 造酒丞

飛騨守利直養子

女子

二條關白吉忠公室

某 雅十郎 早世

女子二人

實松平左衛門尉忠寄室
實家人前田美作守孝行女
三條西前權大納言公福卿室

某 萬菊

母同上
慶安二年八月十三日卒

六世
宗辰

勝九 大平代丸
又左衛門

七世
重熙

龜次郎
初利安

八世
重靖

嘉三郎
初利見

左近衛權少將佐渡守正四位下
元文二年六月廿八日叙任
延享二年八月四日改加賀守
同年十月十八日中將
同三年十二月廿五日卒二十歲
法名大應院梅觀雪峯

實吉德二男
但馬守後五位下
寬保三年十一月廿二日叙任
延享四年二月四日改加賀守
同月十九日正四位下左近衛
權少將
寬延元年十二月廿日中將
寶曆三年四月十日卒二十
五歲
法名謙德院緝甫尚古

實吉德四男
上總介後五位下
寶曆元年十二月廿日叙任
同三年六月四日改加賀守
同月十二日正四位下左近衛
權少將
同月十月五日卒十九歲
法名天珠院嘯月仁勇

利安

龜次郎

女子三人

松平伊勢守宗恒室
寶備後守利章女
南部信濃守信貞室
松平出雲守利幸室

享保十四年七月廿四日生西歸宗次女

利和

前田勢之助

寶曆九年三月廿三日卒

利見

嘉三郎

享保二十五年十月八日生

女子四人

佐竹左兵衛督義真室
二人早世
酒井阿波守忠宣室離別

某

前田八十五郎

寶曆十一年五月十二日卒

女子二人

一人早世
治脩養女

九世
重教

健次郎

寬保九年十月廿三日生
左近衛權少將加賀守正四位下

利博

教千代

實曆四年四月廿五日叙任
同五年十二月十八日中將
和八年四月廿三日致仕
同月廿六日改肥前守
天明六年六月十二日卒
六歲
法名春雲院仁山彭壽

女子 早世

利實 前田喜六郎

明和三年五月廿二日卒

十世 尊元 初利有
治脩 時次郎
延享二年二月四日生

正四位下左近衛權少將兼

女子 治脩養女

女子 實重教女
松平駿河守容詮室

齊敬 教子代 又左衛門
初利博

實重教男 延享七年九月三日生
正四位下左近衛少將兼佐渡守

實重教女 同七年六月廿七日卒年六
法名觀樹院

女子 實重教女
許嫁松平雄九賴儀

齊廣 初利厚
文重教二男 天明二年七月廿八日生
正四位下左近衛少將兼敦前守
實政九年二月九日叙任
享和三年三月十一日改加賀守
同六月十三日左中將
文政五年十一月廿日致仕廿二日改肥前守
同七年七月十日卒年四十三
法名金龍院

加賀守
明和八年六月廿五日叙任
安永元年十二月十八日中將
寬政四年十二月五日任參議
享和三年三月九日致仕廿三日改肥前守
文化七年正月七日卒年六十六
法名大梁院

利次

某 千勝丸

寬永廿年五月十四日卒

女子 梅

水野和泉守忠重室

正甫 掃部
延享三年八月二日生
掃部頭後五位下

某 主稅

延寶四年二月十一日卒

利興 萬徳丸
延享六年五月廿七日生
長門守後五位下

某 龜千代 早世

寶永五年二月六日夫

利隆 彈正
又三郎
元禄三年十月十一日生
實正甫五男

寛文二年十二月廿七日叙任
同八年十二月廿七日後四位下
大藏大輔
寶永三年四月十九日卒五十
八歳
法名正甫院天心日菅

元禄七年十二月十八日叙任
寶永三年十二月十九日從四位上
享保九年七月十八日致仕
同十年五月十九日卒五十四
歳
法名安祥院青山日高

出雲守後五位下
享保九年九月六日叙任
同十年十二月十八日從四位下
延享元年十二月廿日卒五十
五歳
法名大龍院惠天日洽

女子

早世

利隆

彈正系女

庚宝七年七月朔日死

利由

萬勝 早世

宝永七年十二月十七日没

利隆

又三郎

女子四人

酒井越前守忠篤室離別
尚嫁酒井主膳忠英
一人早世

某

又五郎

享保四年六月二十日没

利郷

内膳

延享二年二月十八日没

女子

為

大和守利理室

利寛

内藏

安永五年四月六日没

利幸

隆九 掃部
享保十四年三月十一日生

主計頭從五位下
寬保三年十二月廿一日叙任
延享二年二月十三日改出雲守
同年閏十二月十六日從四位下
寶曆十二年九月四日卒三十
四歲
法名露慈院德風日顯

女子

隆

備後守利道室

利與

隆九

依病籠居後為利與嗣

利與

藝之助 又三郎
寛文二年十月十九日生

實利隆四男
出雲守從五位下
寶曆十二年十二月十八日叙任
同十三年十二月十日從四位下
安永六年十一月八日致仕
同年十二月十八日改淡路守
寛政六年八月廿九日卒五十八歲
法名龍德院

女子二人

石川日向守總博室

利久

隆九 又三郎

實利華長子 室曆十一年三月六日生
出雲守從五位下
安永六年十二月十八日叙任
同八年十二月十六日從四位下
天明七年八月七日卒年二十七
法名恭德院

女子

恒

織田織部信房室

利謙

雄次郎

利嘉

右京

早世

室曆四年二月廿三日死

女子

幸

藤堂佐渡守高雅室

利教

隆五郎

早世

寛延元年二月廿四日改

女子

藝

前田伊豆守長教妻

女子

程

早世

利謙

岩太即雄次郎

美濃守利物室

實利與長男 明和四年十二月廿三日生
天明七年九月 日嗣封土月 日叙任
寛政元年十二月 日從五位下
享和元年八月廿六日卒年三十五
法名龍德院

某

松次郎

寛政七年三月廿二日死

利幹

福十郎 賴母

實利備後守利道八男 明和四年十二月初日生
享和元年十月 日嗣封土月 日叙任
三年十月 日從四位下 文政三年十月
日侍從 天保六年十月 日致仕
七年七月廿六日卒年六十六 法名吳船院

女子四人

利保

啓太郎

利貫

錫五郎

文政二年四月廿六日死

利威

天保十一年七月五日死

女子

天

明和六年三月四日死

利晁

房次郎

早世

寛政二年七月廿九日卒

利保

啓太郎

實利謙二男 寛政十一年三月初日生
文化十四年十月 日叙任 文政七年三月
日從四位下 天保九年十二月 日侍從
弘化三年十月 日叙任 改長門守
安政六年八月十八日卒年六十 法名龍德院

近信

初利貞

利民

銀三郎 賴母

利親

銀四郎 左京

明治二年三月三日死

女子五人

錫 佐竹右兵衛夫義學室
錫 加藤遠江守泰幹室
錫 照坂淡路守安坦室

利興 敦負

利完 易之助 早世

女子 榮 早世

紀忠 澄之丞 早世

利籌 綾之助 早世

女子 早世

利桓 秀松 早世

利治

明和九年十一月四日死

利明 萬吉 大藏 美濃 初利成

實肥前守利常五男

利愛 銚七郎 享和四年六月七日没

利齋 大和守利和養子 鑄九郎 齋宮

利種 文政十二年八月四日没

利繁 錄之助 天保九年三月廿二日没

利清 録之助 天保十年二月三日没

女子 辰 夫

利友 鑄之丞 啓之助

利毅 房之助

女子 前田備後守利義室

利雄 治之助 享和三年正月晦日死

利暢 欽伍 天保九年九月十七日没

女子 道 夫

利毅 久九 天保十年七月廿日没

女子二人 幸 共夫

利通 清之丞 文久二年四月廿五日没

女子二人 定 前田飛騨守利登室

利章 福之丞 嘉永五年八月三日没

利龍 桐之丞 嘉永七年九月廿三日没

某 萬吉 夫

某 木工之助 慶文十一年五月廿八日没

女子 菊

松平紀伊守信庸室

利直 大學 内記 内記從五位下

内記從五位下

利鎮 高九 文政四年十月廿六日没

利謚 祐法郎 文政七年七月廿二日没

女子二人 録 共夫

利文 録三郎 天保九年十月廿二日没

利登 健之丞 嘉永六年三月三日没

利毅 房之助 主計

利毅 録三郎 主計 天保七年二月十七日没

利毅 録三郎 主計 天保六年十二月廿日没

利同 茂松 桐松 徳田住下 淡路守 享和三年六月廿七日没

直方 学之助 初利篤 松平大和守直克養子

女子二人 専 共夫

利中 每言郎

孝丸 初祐之助 敏中養子 侍朝倉教林養子

女子二人 芭 共夫

利章 富五郎 造酒丞

利章 富五郎 造酒丞

實加賀守綱紀四男

實加賀守綱紀四男

大藏少輔從五位下
萬治二年十二月廿七日叙任
同三年十二月廿五日改飛騨守
寬文三年十二月廿八日從四位下
元禄五年五月十三日卒五十六歲
法名大機院賢翁紹英

貞享三年十二月廿六日叙任
元禄五年七月十一日改飛騨守
寶永三年十月十九日從四位下
同七年十二月十三日卒三十九歲
法名圓通院悟性義聞

備後守從五位下
寶永五年十二月十八日叙任
享保元年十二月十日從四位下
元文二年九月廿日卒四十七歲
法名正智院廓巖泰然

女子三人

水野出羽守忠周室
友 南部遠江守通信室
松 溝口伯耆守宣重室

女子二人

高野 松平長門守利興室
酒井左衛門尉忠真養女

利昌 采女

寶永六年二月十八日切腹于
六歲
法名真涼院雄鋒紹機

女子三人

一人早世
加賀守吉徳養女
真由伊豆守信安室

利貞 龜丸

寶曆九年十二月廿七日卒五歲

女子

喜連川大藏大輔惠氏妻

利道

造酒丞
享保六年四月廿四日生

壹岐守從五位下
延享四年十二月十九日叙任
寬延三年四月廿五日改備後守
寶曆四年十一月十八日從四位下
安永七年五月廿五日致仕
同七年七月四日改遠江守
天明元年正月十四日卒四十九歲
法名顯照院徹巖義心

利精

勇之助 造酒丞
享保八年二月五日生

美作守從五位下
安永六年十二月十日叙任
同七年七月四日改備後守
天明二年八月廿一日致仕
寬政三年九月十五日卒三十三歲
法名高源院天然言池

利物

虎次郎

利物

虎次郎 主水
享保十三年二月十七日生

實利道三男
美濃守從五位下
天明二年十二月十八日叙任
同八年九月廿七日卒三十九歲
法名覺成院通峰紹雲

利考

勇之助

女子 千 松平 百寬室
女子 秀 天

信成 カナリ 常五郎 氏部 中務
初利奉 為家臣
安永五年十月朔日死年四十三

女子 島

前田伊豆守長敷妻

某 元三郎 早世
室曆三年十二月十日死三歲

女子 正

許據加賀守治脩

利寧 日三 主討 始 泰五郎 為家臣
文政三年九月十九日死年五十四

利以 毛子 高五郎 大學

大和守利見養子

利行 子子 玉次郎 勘解由
文化六年正月四日死年四十一

利純 好之助 藏人
寛政十二年八月廿二日死年十八

利信 茂吉 造酒
嘉永六年四月三日没年七十

利龍 全三郎 大學
享和四年正月廿四日死年三十一

利考 十ス 勇之助
母永八身正月十日生
從五位下飛彈守
實利精長男天開八年十二月廿七日嗣封
寛政四年十一月廿六日叙任同十二年十二月十六日位攝
文化二年十二月廿五日死年二十七
注名峻徳院俊岳明茶

利純 藏人

利龍 大學

利之 虎次郎 主水

利之 虎次郎 主水
從五位下備後守
實利物男天明五年十月十七日生
文化三年三月十四日嗣封四年十二月十六日叙任
同八年十二月十一日從四位下天保六年十二月
十六日任侍從同七年十二月十日卒年五十三
注名葛倉院温山良潤

利幹 ソノ 當五郎 福十郎 賴母

利極 鑑太郎
從五位下 駿河守
文化九年十月廿日生天保二年三月十六日叙任
同八年二月十三日嗣封八月廿五日從四位下
同九年九月十二日卒年三十七 注名恭正院彦道儀

某 鶴次郎
文化十一年九月廿八日死二歲

利建 鶴次郎
文政五年八月十三日死八歲

利平 鑑太郎

女子三人 一人 天 水野善政守忠順室 永井飛彈守直輝室

某 造酒丞
文化六年正月廿一日死一歲

女子 鈴 天

利平 鑑太郎 實利之四男
從五位下 大藏少輔
文政六年十二月廿二日生天保九年十二月五日嗣封
同廿八日叙任 十一年十二月廿六日從四位下改備後守
嘉永二年七月七日卒年三十七
注名見覺院行誠道心

女子 政 天

利義 基五郎
從五位下 備後守
實中納言齋藤四男天保四年二月十八日生
嘉永二年十月十七日嗣封二月廿六日叙任
同四年十月十六日叙從四位下
安政二年四月二十日卒年二十三
注名諱藏院賢道良祐

女子三

瓊 珮

早世

某

銅吉郎

拾三郎

嘉永元年五月三十日夭三歲

女子

夭

利行

豐之丞

實中納言齊泰五男天保六年七月廿六日生
安政二年七月十二日嗣封十月廿九日致仕
同三年正月十六日卒年三十三
法名觀音院梅花壽椿

利孝

夕力

利意

初利豐

孫八郎

右近

右近大夫俊五位下
萬治三年十二月廿八日叙任
貞享二年四月廿八日卒六十
一歲
法名靈雲院桃岳守悟

利廣

富内

元禄六年七月九日卒四十
九歲
法名觀性院然山宗廓

利慶

孫八郎

右京

元禄八年九月七日卒二十
三歲
法名超玄院梵雲萬里

某

主殿

承應元年八月十一日卒

利英

長十郎

孝矩

帶刀
初利房

日向守
今前田安房守矩貫祖

利世

主膳 大膳
後高考

加賀守綱紀家人

女子

浅野内記友政妻

某

九八郎

夭

豊昌

采女

今前田丹波守武宜祖

孝興

織部

貞享四年八月十一日卒

誠明

左京
後孝經

加賀守綱紀家人

元休

兵庫

上田萬五郎元隆養子

孝教

市左衛門

采女豊昌養子

女子二人

畠山下總守義寧子妻
加賀守綱紀養女

定正

主税 助六郎

孝好

伊勢松敷馬

女子

前田帶刀孝始妻

加賀守綱紀家人

某

市五郎

享保十四年七月十五日卒

某

安之丞

享保八年九月廿五日卒

某

千之助 又五郎

元文三年二月十五日卒

女子五人

共帶刀孝始養女

利英

長十郎 集人

寶利廣二男
寶永五年三月十五日卒
十歳
法橋嚴院大空高月

利理

又五郎
初利方 利安

寶前田帶刀孝始嫡男
大和守後五位下
正德三年三月七日叙任
後改丹後守大和守
寶曆六年十月七日卒

利尚

豊平

宮内

後五位下大和守
寶曆六年十二月十八日叙任
後改丹後守
天明二年五月九日叙任
寛政四年六月廿六日卒
十歳
法名院

七歳
法名禮源院仁宗良心

重勇 三ノト
左門 七右衛門
初孝總

木村七右衛門信祐養子

武宜 ト
要人 播磨守
初孝郷

前田淡路守孝武養子

能弘 ヨシ
右膳 市兵衛
初高友

能勢市兵衛頼能養子

正盈 シノ
左膳
初高方

筒井與次右衛門政悦養子

某 又五郎

寶曆十二年五月十四日卒

利見 アキラ
豐平 右近

從五位下右近將監
天明三年十一月十八日叙任後
改大和守 六年二月六日改任
同三年育七月卒 三歳
法名覺峯院

女子

利見養女

利以 ミチ
為五郎 大學子
從五位下 大和守

實備後守利道六男
天明六年閏十月廿七日嗣封七年五月廿六日叙任
文化五年十一月廿八日叙任宗曆後更号
朝心齋 文政十二年五月四日卒 六十一
法名開松院

女子 利以室

實利尚女

女子 都 天

利昭 保九 孫八郎
嘉永三年九月十八日生

女子 壽

利豁 鐙八郎 孫八郎
從五位下 大和守
淡路守利幹八男

天保十一年二月二日嗣封 十二月十六日叙任
同十四年十二月廿四日改册後守
明治二年八月二日改行

某

松之助
文政十一年八月廿七日夭

女子二人

保 共夫

某

恒八郎

夭

女子二人

雅 共夫

某

錦之助

夭

久成

彦十郎
初利家

加納屋江守文徽養子

女子

睦

南都表作守信民屋

利器

明之助

同姓攝磨守孝 養子

明治二年八月五日叙任

女子四人

共夫

某

学次郎

夭

女子

夭

前田

賜松平

附

利昌

系議加賀守菅原綱紀ハ綱利の少将光高の嫡子

あり初きりどけは太子代丸といふ父の光高左大臣

家乃の大猷院殿 涉養女より世ひすいせく 阿智姫君とす又大姫

君ともすは実ハ水中綱云 寛永九年十一月十六日綱紀をすう

きぬあつく正保元年二月十二日母君涉所り

はりせしむひしんくもめ思えん

まつふたねし二年六月十三日父が遺領を

中ノハ加賀能登越中近江共ハ十萬石ノ領○大奥 年終り二歳
に在りし利者五郎國光の沖原ノ領ニ在りし

ありしにばおんり利常沙汰しし

治しせしとせし修中治しきりふ最意三年正月

十三日大子代九所市よはりりくえ後し正位

下左近衛權少將兼加賀守に兼任し所譯の字

をぬりりて總利綱紀と名乃ふ自宗の所屬 万治

元年十月祀文利常率しゆきし小松乃城

を念せ領を討ふと國十二月廿七左中將

に將し寛永十三年十月老より叙意の比をてりし或は之稱
相模の内より綱紀もよりし

六年十二月朔。衆議し補し木下し十六年

四月廿六日綱利が家の例し老臣乃りり叙

爵をゆるしふり三人ありしを又一人を

くりし四人にすハ爵揚も新べし

せりされぬと翌日ハ綱紀が邸小ありせたすハ

總紀及ハ息男若君使より叙乃多り

りりしにば密を新事し是るをりり

アノモのたまはつ少の〜が宝永四年十二月
從二位にのびり、享保八年五月九日致はす年
つらりてハ十二たの〜も九年五月九日をり
男 徳紀ハ智仁勇のこをうみりよとてむかやど乃人〜あり
けは國の政勢とすこれ〜もむかやど乃人〜あり
ゆま〜に徳紀この川上の山せひ〜あり〜をひ〜むかやど
〜徳紀のゆま〜に〜山せひ〜あり〜をひ〜むかやど
〜徳紀のゆま〜に〜山せひ〜あり〜をひ〜むかやど
え福十あ年二月廿八日〜の〜人年〜三月九日

御前少〜〜之後〜御偉字紹りり正四位下
左を衛権少將兼若狭守〜小教任〜
五年十一月十八日御前乃娘君をむ〜素〜せ〜

室とひ 松原志とよの屋徳大綱公えんかの息女を御前、享保八年
むく〜のひ君とせ〜あり 享保八年
父の家〜〜禮〜〜八月左中ねり〜傳〜え文

五年十二月奉御儀り補〜延享二年六月十二日
五十九年奉に〜〜卒 享保十一年の秋若徳公十あを
はつりて公の御用をたすも〜せ〜
車あり〜りあ〜〜に法西の國〜ありて〜
ゆ移の〜り〜を〜お〜の〜り〜

すゝもゆりあひとすけまげこの年ハしぬりぬれぬも十八年
のまを徳いともゆりり今迄ハ一もまじくもまのついでにまを
わのめらさせしほひくゆきもあまのひまのまをすくすく
まのまを徳いゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
てお徳し三月廿八日え後し所律字をさぬけり
まのまを徳下の少お兼佐藤るに叙任し後兼其母の父が
律字を紹り
卒せし年の七月廿六日家終し十月十八日申お
し終しあくる年の十二月廿二日廿二卒しし卒し
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

す重熙トの寛保二年二月十六日りん
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
延享四年正月廿六日兄が家つぎ二月十九日所
律字を紹りり正四位下の少おし任し正四位の所
律字を紹り
乃ち申おし終し宝曆二年四月十二日卒し
年サあまのまも男子ありゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
念丁元年十月廿五日
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
し室三五月十八日重熙が家つぎ六月十二日

正下北四位よりなり左少将に任じ加賀守を
かき御許乃字をさびく重清とあらたじか
らるる瑞國のいと女をぬりてくさりし十月
五日金沢にゆくうせぬ十九年より本乃事冬を
健次郎にとやありけきばさるる遺領をさぬ
とふべうもくにおのより健次郎をも金沢あり
杉中病ふぬては戸によりしびとらほをさび
あく新室暦四年乃三月よりあつてししかば

十一日に御所よりあて湯たいたいありすぬもち
家つぐべきよとせつて四月十日より御所よ
あわりて元後の事ありさるる例よらせく
正四位下の左少将に任じ加賀守をさるる御許の
字たぬらして重教と名なる徳前倫亮のたぬら五年
十二月左中將に任じ國政をさるる事十七年に
ありぬ重教いさむ四十にも及らぬ事ありまじと
病癒りをりあきて公ねのつとあつてしかり

あまはあともめむ八年の時次郎が金沢より
わたりしをよびのむを二月廿六日あてて見
ありしは四月廿二日國にうつて其の身は終はし
肥前守あまはあ天明六年三月十二日金沢よりありて卒す
四十六歳あり時次郎兄よつとてしつるに
まゝくえ後しは四位下左少将兼加賀守ありて
治備と名のふあまはあ安永元年十二月左中將と
す

大藏大輔菅原正南正南八前八前編利編利昌法昌法踏守踏守利次利次が次男
あり七子寛文二年五月十日をへて死んで葬
福し十二月従五位下掃部卿あり叙任は
明徳八年乃冬後下の四位にのり大藏
大輔ありあは延宝二年九月四日家を
つ戦中宝永二年四月十九日五十八歳に
しつ卒あり七子百徳丸百徳丸利興利興之福五年七月
廿八日をへて死んで見ありしは七年の

冬従五位下長門守小敷任し文にわたり終り
年の六月六日遺領をすむり十二月後四位下
りおかり享保九年七月十八日致仕し木
あども十八年五月十九日五十四歳にす率
利興^{トシオト}男子ふりつるかば也彈正利隆^{トシカ}嗣
とありお終り乃ち後五位下出雲守に任し
同十年乃ち後四位下し延享元年十二月
廿日卒の年五十六其の子隆九利^{トシタカ}幸^{チキ}なり

はき寛保二年十月十日とめくまのみ身
た〜り十二月教養して主計のりあり
延享二年二月十三日家終り出雲守に改じ
同十二月後下乃四位のり宝曆十二年九月
四日二十四歳にす率の女子隆九世をす
けは也利興^{トシオト}嗣とあり六月十一日十歳
領をすひ十二月朔とめくまのり〜後五位
下出雲守ありあ〜る十二年後四位に教

安永六年十一月八日改仕して跡を長子又三郎

利久トシヒサよりつづふ二侯後よりあらたむの利興トシノブ文學をぬく二安永

見をトシノブとくくつりあとし十二月後五位下出雲守

に任じトシノブ同き八年のあつ後四位下に叙す

飛騨守管系利トシノブめハ中納言利常トシノブが又五の子に

て兄の飛騨守利治トシノブり嗣子あり万治二年五月

廿三日トシノブのあつ後五位下大藏

少輔り任じ翌年七月之日利治が遺領を

すトシノブの隣七万石 寛文二年十二月後下の四位り

乃り元禄五年卒トシノブ五十四歳 嫡子内記利直トシノブ

天和四年二月十日トシノブのあつ後五位下

年乃り後五位下に叙し元禄四年八月十九日

奥後の元とあり同き五年七月九日家絶く

も采女利昌に下領わりトシノブ利直トシノブこの時飛騨守

りありトシノブ宝永三年十二月後四位下に叙し

同き六年一月廿一日奥浩元を以新しき年とあり
くふ年十二月十三日二十九歳にしき年とあり
子造酒造利章トシヤウ実ハ少好細紀コトキ也口の子あり
宝永五年二月廿八日とありし年とあり十二月後
五位下位後より叙任し正徳元年正月廿九日造
領を以しし享保元年十二月後四位下し元文二年
九月七日卒し四十七歳とあり子造酒造利造とあり十
月廿七日家をつぎ延享二年二月廿六日とあり

享和元年正月廿一日のち後五位下を以しし
叙任し後位後より宝暦四年十二月後下の四位にのり
安永七年五月致仕し遠くはに改めたる年家を
勇之助利精トシヤウのりし利精とあり安永四年十月
十日お徳し同き六年のち叙任して正徳元年
にあり後位後より天明二年八月廿七日物よりして致仕
サレ男ふありし年とあり主水利物トシヤウを以て嗣
子とし利物とありし年とあり十月部とありし年とあり

牙^{サニ}り^歳十二月後五位下為濃多に叙任す

采女菅原利昌^{トシチカ}ハ^{菅田}孫多利^{トシチカ}の二男あり

元禄五年^{七百}足利孫多利直が^{トシチカ}下^{トシチカ}のわらありあつて

ふ^{トシチカ}二万石 宝永六年二月京敵山^{トシチカ}より^{トシチカ}法皇行

と^{トシチカ}れし時織田監物秀親と^{トシチカ}木^{トシチカ}の^{トシチカ}く^{トシチカ}勅使を

悪の事をも^{トシチカ}つり^{トシチカ}あ^{トシチカ}の^{トシチカ}月十六日の曉京敵山乃

悪恩院にありて^{トシチカ}賊^{トシチカ}の^{トシチカ}程^{トシチカ}を^{トシチカ}秀親を殺害す

け^{トシチカ}し^{トシチカ}ハ^{トシチカ}禁^{トシチカ}の^{トシチカ}す^{トシチカ}石川^{トシチカ}と^{トシチカ}尾^{トシチカ}の^{トシチカ}義孝^{トシチカ}に^{トシチカ}あ^{トシチカ}り^{トシチカ}あ^{トシチカ}り

あ^{トシチカ}り^{トシチカ}因^{トシチカ}り^{トシチカ}十八日死を賜りしを^{トシチカ}れ^{トシチカ}ハ^{トシチカ}家^{トシチカ}絶^{トシチカ}多^{トシチカ}す

^{トシチカ}領^{トシチカ}知^{トシチカ}利^{トシチカ}直^{トシチカ}の^{トシチカ}賜^{トシチカ}り^{トシチカ}

右^{トシチカ}近^{トシチカ}左^{トシチカ}父^{トシチカ}菅原利意^{トシチカ}ハ^{トシチカ}菅^{トシチカ}田^{トシチカ}孫^{トシチカ}多^{トシチカ}利^{トシチカ}直^{トシチカ}の^{トシチカ}嫡^{トシチカ}

男^{トシチカ}あり^{トシチカ}寛永九年三月十八日^{トシチカ}初^{トシチカ}く^{トシチカ}入^{トシチカ}系^{トシチカ}し^{トシチカ}同

し^{トシチカ}十四年九月八日父が^{トシチカ}遺^{トシチカ}領^{トシチカ}を^{トシチカ}賜^{トシチカ}り^{トシチカ}上^{トシチカ}野^{トシチカ}國^{トシチカ}の^{トシチカ}内^{トシチカ}万^{トシチカ}石^{トシチカ}

三年十二月^{トシチカ}叙^{トシチカ}爵^{トシチカ}し^{トシチカ}右^{トシチカ}近^{トシチカ}左^{トシチカ}父^{トシチカ}と^{トシチカ}孫^{トシチカ}を^{トシチカ}右^{トシチカ}近^{トシチカ}左^{トシチカ}監^{トシチカ}物^{トシチカ}貞^{トシチカ}

享二年に^{トシチカ}身^{トシチカ}返^{トシチカ}り^{トシチカ}め^{トシチカ}朝^{トシチカ}正^{トシチカ}親^{トシチカ}と^{トシチカ}子^{トシチカ}宮^{トシチカ}内^{トシチカ}利^{トシチカ}廣^{トシチカ}と^{トシチカ}し^{トシチカ}

七月廿日^{トシチカ}家^{トシチカ}つ^{トシチカ}ぎ^{トシチカ}て^{トシチカ}元禄三年七月九日^{トシチカ}四十九^{トシチカ}歳^{トシチカ}に^{トシチカ}し^{トシチカ}

卒の嫡子右系利慶貞其四年九月六日とて
拜賜し父がうせし年の九月十三日遣領をさし
元禄八年九月七日卒の年廿三ふいまは子ありけれ
む十二月二日也華人利英トシとて水鏡を利英トシ同
き十二年二月廿八日とて人系し宝永五年
二月十六日年廿三トシとてせぬそもあつたに
族弟乃孝始が嫡男又五郎利理嗣とあり四月七日
遣領を賜りしとて同廿七年閏八月朔とて拜

賜し正徳三年二月七日後五位下大和守に叙し
後丹後守又大和守改じ宝暦六年卒の十二月七日五十七歳そ子宮内利尚寛延
三年二月朔とてとて見せり宝暦二年
閏十一月廿九日父とて十二月叙爵して大和守なり
のり丹天明二年五月九日叙任しのり丹そ子右近利見
去年乃八月十六日とてのり丹とてお給しとてお給
てあつた二年十二月後五位下右近利見に叙任しのり丹

[Faint vertical text bleed-through from the reverse side of the page]

京極

源高杏メカ コシ

女子

高次ツジ

忠高メカ

高和メカ

女子二人

宗刑部大輔義真室
今出川右大臣公規公室

某

小法師 早世

女子

早世

高豊

百助

備中守從五位下 寛文九年十二月廿五日叙任
元禄七年五月十八日卒四十歳 法名傑山道英

女子

實藤堂大學子頭高次女

石川日向守昌能室

高房

賴母

女子

高和養女

實家人多賀宮内常良嫡男
延寶五年五月廿一日卒無嗣
家絶 法名俊林道逸

女子

實高房女
石川備中守總乘室

某

仙千代

早世

某

祐次郎

早世

某

松之助

早世

女子

酒井雅樂頭忠奉養女

女子二人

安藤對馬守信友養女

女子二人

板倉内膳正勝永室
許嫁高退高退卒城遠山
和泉守友清

高退 虎五郎

寶馬之助高經男
中務少輔從五位下
寶曆九年七月七日叙任
同十二年閏四月廿四日卒十七歳
法名正嶽道智

高或 繼殿

若狹守從五位下
寶永三年十一月十九日叙任
享保九年八月廿二日卒三十三歲
法名仁嚴道宅

一人早世

高矩 繼殿助
初高定

佐渡守從五位下
享保十六年十一月廿三日叙任
寶曆十三年九月廿六日卒五十一歲
法名直翁道截

高中 榮吉
初高躬

從五位下能登守後若狹守
明和七年十一月十二日叙任
文化六年正月十三日卒五十六歲
法名覺法道元

忠需 安三郎

西尾隱岐守忠尚養子

高教 蔚

高綏 馬之助

高迢 虎五郎

高亮 喜七郎 早世

高行 忠次郎 早世

女子 幸極壹岐守高球室

高義 富丸 從五位下 對馬守
天保六年十一月十六日叙任
弘化二年七月十六日卒二十八歲
法名極山道閑

良安 左門 後良直

家人 多賀式部良貴養子

高朗 友三郎 從五位下 長門守
文化八年三月九日開封十年十一月十六日叙任
嘉永三年三月七日叙任

養女 安岡外記長貞女 遠山義濃守友壽室

國之助

繁若

小法師

正治郎

竹之助

直丸 以上六子皆失

女子四人 皆夫

朗徹 源三郎 從五位下 佐渡守
安永二年十一月十六日叙任
嘉永二年五月五日叙從五位上
享保九年五月五日叙從五位上
明治六年三月五日叙任

高德 從一位下 弘高家 朝長 兵衛
明治六年三月十五日叙從五位上

女子

某 輕三郎 早世

某 辨之助 早世

高明 豐吉 早世

某 定五郎 早世

高通

喜内 内膳
初高澄

壹岐守從五位下
寶永六年三月七日叙任
享保廿年九月廿四日致仕
同年十月十九日剃髮號
道靜
寬保三年四月廿日卒五十
三歲
法名寂翁道靜

高慶

千吉 内膳

出羽守從五位下
享保廿年十一月十六日叙任
寶曆八年二月廿六日卒三十
七歲
法名安禪道寧

高文

内膳
初高英 高武

從五位下壹岐守
明和八年十一月十日叙任
寬政八年七月廿日致仕改國書頭
十月廿日卒年五十 法名英山道雄

女子

伊達和泉守村賢室後嫁
藤堂山城守良孝離別

某

岩八 早世

治高

松平筑前守治之養子

女子

西尾德岐守忠尚室

某

八十郎 早世

高伴

長三郎

某

左馬造 早世

高祇

元之丞 早世

女子

許家京極采女高閻早世

某

忠五郎 早世

高知

某

督之助 天

高賢

從五位下壹岐守
寬政八年三月十九日叙任天保四年三月八日致仕後改
右亮 六年三月五日剃髮號道靜
九年三月六日卒年六十三 法名寂翁道靜

高通

高供

高琢

從五位下壹岐守
安政六年三月十日叙任後為大膳守
慶應三年三月廿二日卒年五十七 法名道信

某

信次郎 天

高鷲

督九 早世
共天

女子三人

酒井出雲守忠恒室
松平三郎太新康室妻離別
寛之伯

高寶

天保十年十一月廿九日死年三十五

國若

天

女子二人

共天

高明

隼人

備後守從五位下

延寶三年十二月廿六日叙任
貞享元年七月二日改主膳正
元禄十三年四月廿九日致仕
寶永六年三月八日改隼人正
同七年閏八月十四日剃髮歸
道意

享保十一年十二月二日卒六十
七歲
法名智宏院仁壽勇便道意

某

孫六

早世

高典

於菟之助
從五位下壹岐守

女子

天保元年正月去叙後改河内守
又下院守
明治五年六月十五日致仕

壽吉

實山崎
明治五年八月卅日叙從五位

女子

梅子

高之

鍋千代

主殿

主膳正從五位下

寶永六年三月七日叙任
享保八年二月二日卒四十六歲

法名隆源院天譽碩合道倫

高重

外記

正德二年二月廿卒三十三歲
至孫伊兵衛高伴有罪家絶

某

内記

天

某

鍋之助

元禄四年十二月廿日卒

高長

内匠

右近

實内藤豊前守式信三男

備後守從五位下
享保八年十二月十八日叙任
明和二年八月八日致仕

同年十二月十八日改主膳正
同六年四月三日卒七十五歲
法名源家院廓譽常光道仙

女子

高長室

某

久米之助

八幡宮本坊弟子

季明

岩松

本間善左衛門季子豊養子

高久

千之助

右近

實京極織部高徒二男
備後守從五位下

女子

早世

明和二年十二月十八日叙任
享保元年六月廿日改備前守八年叙左近
享保元年七月十日為備前守
天保五年四月三十日卒年六十法名謙院明養道繼

高備

子之助

主水

從五位下周防守
天明八年十二月廿六日叙任
文化五年六月十日改封九年三月五日為
少左改九年十月廿三日改上總介
十二年十月廿一日轉藏天保三年十月二十日
致仕六年五月三日卒年七十九
法名廣善院紹譽英叟道俊

女子

早世

高亭

主殿

享和三年五月晦日卒年十五法名觀院性家道繼
大保元年叙叙行兼
保田三郎守直方室朝別家山周防守致
城与一即別氏事
子之助 主水

高聰

從五位下備後守文政元年十二月廿六日叙任
天保元年三月廿三日卒年三十三法名田院宗養一東道賢
上田左衛門義忠事

直貞

一色内田直光養子
宮内

正應

義三郎
津田修理正良養子

女子

熊勢熊之助 妻

高門カド

兵部
初高明

享保六年二月十七日卒六十
四歳
今京極八之助高燭祖

女子三人

實共圖書高里女
京極帶刀高壽妻
家人
石東源五兵衛明遠妻
家人
坂本團右衛門守休妻

高住カキ

土肥之助

某

萬里之助

早世

高里カト

奧之助 圖書
民部

初高久 高德
京極兵部高門養子後
歸刺髮髻端石

高完カク

求馬

京極齊宮高成養子

女子三人

共高住養女

女子

早世

高寬カウ

土肥之助

享保十一年九月十一日卒十歳
法名源通院道圓日照

高永カカ

黑田大吉 修理
初高平

享保十一年九月十九日繼高寬
甲斐守從五位下
享保廿年十一月十六日叙任

高品カホ

六九

修理

甲斐守從五位下
寶曆十一年十一月十八日叙任
寬政三年五月十日致仕十月十三日刺髮

高太カカ

陽吉

左近

實高永五男
依病籠居

寶曆十年八月十二日卒四十
歲
法名靈瑞院新豐華谷道淳

四年七月六日卒年五十一
法名賢明院徳公羽通侃

某

多田勝十郎早世

高有 錦三郎 初高尚
從五位下 加賀守 後飛騨守
安南雄備前守高文五男
寛政三年十一月十六日叙任
天保二年五月十日叙任
法名瑞泉院泰山道雄
三年七月廿六日卒年五十七

高行

六九 修理
從五位下 甲斐守
天保二年十一月十六日叙任
弘化四年九月廿九日卒年五十五 法名成義院善智傳徳

成壽

幾松 舎人
初高盈

氏德

錦三郎 初高尚
島田藤三郎 養子

永武

元吉 早世
坂部左五右衛門正方養子
玄蕃

某

東之助 夫

女子三人

石川敷負總武妻
許嫁鳥居左太郎忠信離別
嫁大澤下野守基季
一人早世

高太

陽吉 左近

女子

夫

高厚

鑑吉郎 修理
從五位下 飛騨守
弘化四年十一月二日兩封廿八日叙任

女子

早世

六九

夫

女子二人

夫

とし十月晦日十歳しして遺領をさるりし時
七年閏六月朔よりしてはくくをさるり十二月後五位
下能登をさるり任す

手取高通の由中より高豊が五男ありて七
年六月十八日父が遺領をりくら領を石一石に
十五年四月十五日よりしてはくくを得し寶永三年
三月後五位下ししてはくくをさるりし時
廿四日後五位よりしてはくくをさるりし時

ちん

高通が位のり判發ししてはくくをさるりし時
寛保三年四月廿五日よりしてはくくをさるりし時 高慶よりしてはくくをさるりし時

年五月廿八日よりしてはくくをさるりし時
乃り教養して出羽よりしてはくくをさるりし時
六日年二十七にしてはくくをさるりし時
日父よりしてはくくをさるりし時
了るし十二月教養してはくくをさるりし時
侍傳より源高盛ハ飛騨より高直が嫡男ありて寛
文三年二月廿五日父が遺領をさるりし時

丹後國田
越二万二

石合者乃部高門より所領わりの石高直四月

七日より八月の拜得し十二月教書して和紙

中八年五月廿一日但馬國津島郡赤木の地を

より取りあがりつるに万石の地を

多し延宝二年二月十八日致仕し宝永六年二月廿日

六十年卒の前後に寛文七年致仕しとあるはあやまりあり 子六肥之助高直前編に

死す実者先より高直の四男のり寛文七年

九月五日より延宝二年家を治す

十二月從五位下甲斐守七任より延宝七年七月廿九日

病より死す致仕し享保六年八月十三日卒す七十一歳 長子從五位下

兼家をつる水野左衛門善興ヨシノ 廣業をわ

くの儀 高業ヨシノ 宝永元年九月十六日死す

之より死す乃りり叙爵して加賀守

任し享保六年六月十三日卒し三十二歳子六肥之

高直八月二日父が遺領を承継しりたけし十一

年九月十二日十歳に死す

歳少〜卒ハ世の子石道高長実内夜豊前守
藤原式信ガ三男ナリ高之ガ女小ナリテ嗣トアリ
正徳四年九月十五日〜の〜梅福〜高之〜也
年の四月二十日〜送領をせり〜十二月叙爵して
後後より任ト明和二年八月八日被任〜主格中ノ礼
シ〜三年四月二十日卒以年七十五子主殿高
久ハ支族織部高之延ガ三男ナリ寛延二年十一月
薨ル〜又系〜明和二年薨ル〜
十七歳

〜從五位下に叙〜後後〜任ガ嫡子主水
高備安永二年六月十五日〜

[Faint vertical text bleed-through from the reverse side of the page]

黒田

源長政

忠之

女子

酒井河内守忠孝室

綱之

筑前守俊四位下

吉之
左京
初政之

大隅守俊四位下

元禄九年十一月廿六日叙任
寶永七年七月三日卒二十九

法名乾光院範雄道洪

光之

初長之
植萬
吉兵衛

左京大夫從四位下
寬永廿年十二月廿九日叙任
正保四年三月廿八日改右衛門佐
兼應三年十一月廿六日侍從
元祿元年十一月九日致仕
寶永四年五月廿日卒六十歲
法名江龍院淳山守真

之勝

萬吉
初政之

黑田東市正高政養子

女子

實松平右近大夫翹興女
東市正之勝室

某

市之助

早世

寬文九年十二月十一日叙任
延寶五年二月十三日依病薨
同年三月剃髮歸隱乾後
改泰雲又稱真乘坊幹亮
寶永五年七月八日卒五十四歲
法名真乘坊幹亮

綱政

宮内
初長寬

初東市正之勝養子
宮内少輔從五位下
延寶四年十一月廿八日叙任
同五年閏十一月廿一從四位下
肥前守
元祿元年十一月廿五日侍從
寶永七年十一月十八日改右衛門佐

宣政

守山辨之助
初政則

和泉守從五位下
元祿十四年十一月十八日叙任
寶永七年閏八月廿一日從四位下
佐渡守
同年十一月十八日改肥前守
正德元年十二月十八日侍從
享保四年十一月廿三日致仕

女子二人

一人早世
宣政養女

正德元年六月十八日卒五十
三歲
法名靈源院回山紹光

長清

平八郎

伊勢守從五位下
貞享元年十二月廿五日叙任
享保五年二月廿三日卒五十
四歲
法名龍湫院瑞林道祥

某

龜之助

早世

延享元年八月十日卒六十歲
法名泰林院義山道勇

女子

許嫁上杉氏部大輔吉憲卒

長好

菊千代

宣政養子

某

早世

女子

甲斐守長里室

女子

佐竹右京大夫義奉室

女子四人

松平伊豫守宗政室
酒井左衛門尉忠温室
甲斐守長邦室
松平越中守定邦室

重政

左京
初長嗣

某

早世

修理大夫從四位下

寛延元年十一月廿八日叙任

寶曆十二年七月廿五日卒二

十九歳

法名瑛光院瑞嶽紹鳳

女子

継高養女

某

黒田宮内
早世

女子二人

立花左近將監鑑通室
南部信濃守利謹室

長経

黒田平八

寶曆十三年八月廿八日卒一
十三歳

女子四人

廣橋大納言伊光御室
許嫁久我中將信通卒
二人早世

某

隼三郎

早世

繼高多 菊千代 官兵衛
初長好

實伊勢守長清嫡男
筑前守從四位下
正德四年十二月朔日叙任
享保四年十二月六日侍從
寶曆元年十二月十六日左近衛
權少將
明和六年十一月十日致仕改
圖書頭
安永四年六月十七日卒七十
六歲
法名功崇院章山道善

女子

實吉之女
繼高室

治之子 隼之助
初高滿

實德川刑部卿宗尹卿男
侍從式部大輔從四位下
明和三年七月十八日叙任
同六年十二月三日筑前守
天明元年十二月廿二日卒
三十歲
法名鳳陽院典山紹靖

女子

治之養女

女子

實里政女
許據治之早世

治高多 又八
初高幸

實京極出羽守高慶七男
侍從筑前守從四位下
天明二年三月七日叙任
同年十月廿四日卒二十九歲
法名龍雲院德巖道俊

女子

實繼高女

早世

長高アキヲ

雅之助

實德川民部卿治濟卿男

長興オキ

女子三人

藤堂佐渡守高通室
小笠原壹政守長祐室
小笠原備中守真方室

某

大萬

早世

長重 三六 千之助

甲斐守從五位下
延寶元年十二月廿八日叙任
實永七年十月廿九日卒五十二歲
法名英雲院別史宗傳

女子

宗家家人
黑田三左衛門一貫妻

長軌 山 千之助
初長矩

隱岐守從五位下
元祿十三年十二月廿一日叙任
正德五年十一月四日卒三十歲
法名興陽院三峯宗玄

女子

早世

長貞 サハ 加藤市大夫 修理
初長治

實宗家家人野村太郎兵衛
祐春嫡男 廿四歲
甲斐守從五位下
享保元年七月廿三日叙任
實曆四年九月十日卒五十八歲
法名興願院耀譽祐歡

女子

加藤遠江守泰溫室

女子二人

松平淡路守直貞室
保科越前守正率室

長邦 三 修理

河内守從五位下
元文二年十二月十六日叙任
寶曆五年九月五日留甲斐守
同十二年二月廿五日卒四十一歲
法名興德院一峯宗關

長惠 三 豊松

甲斐守從五位下
明和七年十一月十六日叙任
安永三年九月二日卒二十一歲
法名信源院真應宗傳

長堅 カク 貞之助 千之助

實山崎主稅助義俊二男
天明五年三月廿日依病籠居
同年九月十日卒十九歲
法名靈雲院光獻首照

女子二人

秋月佐渡守種美室

女子

山崎主稅助義俊妻

長道 三 外記 早世

忠聽 アチ 多宮

酒井兵部忠陸養子

女子三人

甘露寺前大納言規長卿室
白川少将 資頼王室

長壽

信助

早世

女子六人

唐橋少納言在家室

二人
助解由宿學長室
唐橋少納言在家室
栗津主祝元昭妻

長舒

幸三郎 修理

實秋月佐渡守種頼二男

從五位下 甲斐守

長韶

大萬

金十郎 助解由

同十一年二月廿六日卒年五十二
法名龍徳院兼翁文水
唐橋少納言在家室
初長見 長房
同五年四月九日嗣封改甲斐守
文政十三年十月廿六日任廿七日改兵庫頭
天保三年九月三日改韶

長元

茂次郎 助解由

同十一年二月廿六日卒年五十二
法名龍徳院兼翁文水
唐橋少納言在家室
同五年四月九日嗣封改甲斐守
文政十三年十月廿六日任廿七日改兵庫頭
天保三年九月三日改韶

天明五年三月十七日繼高堅

同六年十二月十六日叙任
文化五年二月十六日卒年四十四
法名朝陽院大雄向水

紙成

梅三郎
即九左衛門宗成養子

女子

天

利亮

好松 内記

女子

木下恒三郎 養子
黒田小一郎利昌妻

女子五人

養子長元室

同十一年二月廿六日卒年五十二
法名龍徳院兼翁文水
唐橋少納言在家室
同五年四月九日嗣封改甲斐守
文政十三年十月廿六日任廿七日改兵庫頭
天保三年九月三日改韶

豐福

繁太郎

山内連江守豐賢養子

女子

天

信綱

舒九

織田出雲守信教養子

男二人

共天

女子

天

長儀

菅菊 安菊 民部

松平下佐守忠國養子

長義

順丸

母長韶女
近江守徳五郎下 安政六年十二月十六日叙任
萬治元年九月十九日改甲斐守
文久二年正月二十六日卒年十八
法名太陽院春窓宗尊

長徳

岩虎 萬之九

實長元八男 弘化四年三月廿九日生
文久二年七月廿五日嗣
元治元年四月六日叙任

女子 家人吉田右近貞壽妻
 長徳 岩虎 萬三九
 某 天
 女子 文富島伊豫守通請室 離別
 某 源吉郎 天
 某 其浦主殿尚庸養子 早世
 女子 天

黒田 賜松平

附 侍傳子長徳

侍従兼右馬の依源光之ミツヒの飛前トビサキの忠之タケユキの嫡男あり
 幼名ハ槌弟ツチノカミと云ふ寛永十二年正月五日八歳より
 してめり見系ミケの十年乃ち從四位下シテに叙し
 左系サキ左史サシに任じ安永元年十二月廿八日所家號及び
 所傳トクノトの字を賜ひ右傳ミツノトの依光之ヨシヒよりありて
 兼應二年四月廿二日父が遺領を多しタカシに三万二千石五月
 廿二日長傳チカノト乃ち長傳チカノトを承りて
父忠之タケユキの御ミコなり侍傳トクノトを承りて
 長傳チカノトの御ミコなり侍傳トクノトを承りて

六つ〜乃冬侍従り但し元禄元年十二月改仕

宝永四年五月廿日嫡子筑前守徳之公子於辰本を本れ上に前

たり徳之公宝永五年海くくて次男宮内少輔長寛を子に五十四年にりて弟よりふりて

とす長寛子の叙父東市正之侍り登り

ふりて寛文二年十月九日家をつとむ筑前国巨勢

直方ととも東市正も九年二月廿八日あてて系

〜延宝四年叙高子をり志るふり元徳之公於辰

弟といふくふ五年二月十二日父克之公り中

あひてを乃があよよびとりぬこの時長寛の御

こと〜同十二月從四位に叙し所家御所傳傳

字福つりく松平肥前守徳政とあく〜あ名はふ

長寛の御元禄元年十二月九日家をつとむ平八郎

長寛後侍子〜古領わりり初襲日松平も廿六日侍

りし〜み正徳元年六月十八日卒於嫡子元宗

克之子元禄四年二月十六日あ〜あく福く〜九年

十一月元禄く〜侍下四位乃大隅とり任し所家

四月十五日かの所位を待高タカりかくしつるも
宝暦元年乃冬少ねに情しめむい年十二月十日
致仕して常書改りあしめ年つらりて七十六
安永四年六月十七日に終りぬ嫡子左京長賢ナガタカ寛
延元年見青月正月十六日しめくえんをこころりあ
しつるの冬之後し所家號所諱の字をぬらりて
後四位下しつて修理左史り任じ皇政をあたじ
寶暦十二年七月十四日廿九歳しつて卒す次男

宮内某ニ男平八長経ナカツチもにしつるもりあきつを
をこやせしはたねしつるも十三年十一月廿三日
任じつらりて刑部卿定尹タカ卿の五男集之助ミカ満
妹をのが女り配せし嗣とみふいのとき若田と称
すべりしつを所家號を揚りる家ひまじはしつる
しつるに松平と称すべりしつ後下しつるぬむむ二
年十二月十六日高満タカミツしつるもあしつる年
七月十八日之後しつて四位の侍後兼式部大輔に任じ

所傳字揚りりく治之とす後筑前守にあつても後筑前守にあつても

治之の國ゆづりて天明年十一月廿一日年三十

歳少く平の長子年三席をす

京極出羽高慶が子又ハ高幸を嗣とせしこと

をすひさせしあくる二年二月二日高幸

多家つがせし禮すくり所家辨をゆり

はまのたぬき十八日高幸を拜謁

三月七日え終りて從四位下侍兼筑前守にあり

所傳の字をるりて治高とあつたじ皇國の治

時十九歳あり志るふに十月廿四日福皇よてに

小痛てらせぬまも嗣子ふたりりり民部郷

治所御乃次男雅くゆ長高を嗣とて十二月十九日

家つをせしこれと直り松平長高ことわけり

六歳ありいとあつた支族乃ものりり

て長傍乃敏流を治とび新御ありかど思田

子と助長也といふ初弱ふまハ長高が家の老と

も心をあつせしむるに満ちる處よりし任りし
終ぬ

甲斐守源長重シゲハ田原初名シゲ也シゲもと北甲斐守長興ノブの嫡子

あり寛文五年二月十二日文が送領を賜ひ後書玉林月五方石

延宝元年叙爵して元禄四年五月十八日奥後

乃元とあり五年八月十六日湯谷者となりしと宝

永五年二月十九日辞ししして七年十月十九日

五十二歳なりし卒し嫡子中長親ノブ之孫十年九月廿

八日ありし是年より十二年の冬叙爵して

隠岐守に任じ宝永七年十二月廿七日家を以て

正徳五年十一月十四日卒し二十歳なりし嫡孫長貞ノブ加藤

市駿實ハ野村大郎玄清祐春ノブの子あり野村大郎家の嫡子なり長親ノブハ長親ノブカ

再嫁あり十二月廿六日長貞ノブハ長親ノブカ送領をたぬり

あり正徳六年正月十日卒し是年よりし

享保元年乃秋後五位下甲斐守に任じ宝暦四年

九月十日年五十八に卒し嫡子修理長邦ノブ之文

元年二月十六日... 家つぎ... 長恵... けい... 二十一年... 山崎王... 次男貞... 長堅を...

送領を賜... 長堅すてに十七... 一族の... 家... 宗家雅... 長... 宗家雅... 長...

長清をうもむるに幼弱のやどは支族のあふ
まはくはもれしとあきハ別儀よりてうれさい
にやせりおとせし位下されしかば天保五年三月十
七日長堅致仕し林月依渡ち大光の種頼タネタカ二男幸三郎
長舒ナガシユして家つぐす長舒は月節日くめくえん系
し五月節の宗家雅とゆにかりりて長清を譲るべし
と位下タテシの事チキ長堅ハ病はわづらひえひして九
月十日身はかりぬ

侍勢ち源長清ナガシユハ梅田ウメノ右馬依光之ミキの四男なり天保
二年十二月廿一日くめくえん系して貞享三年の冬
従五位下のちよ教任し元禄元年乃十二月九日又の
而領をわりり賜くる飛前園のうりり松野田マツノノ五万石に給じし二年四月十
日奥平元とあり同き二年正月廿八日つとめをゆる
け新正徳四年肥前守宣政病よめて国より
しかりかこあきハ五月七日位よりその長清ナガシユより
て長清を譲る事保五年二月廿三日五十四歳より

幸平の嫡子長好宗家をつぎとて外よふる
かば長清が家ハ絶てたり西領ハ宗家よりかへし

（左も〜）

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

有馬

源豊氏 トヨウヂ

忠頼 タケノリ

頼利 タケシ

頼元 タケノト

實中務少輔忠頼二男

源四郎

頼旨 タケノサト

萬吉 マンキチ

筑後守從四位下

則維 ノリヒ

虎之助 兵庫

實石野八大夫則貞二男

中務大輔從四位下
寬文八年十二月廿七日叙任
元禄八年十一月十八日侍從
實永二年七月廿日卒五十二歲
法名慈源院忠巖道孝

元禄十三年十一月廿一日叙任
實永三年四月廿日卒于歲
法名昌林院謙空道性

女子四人 男天

一 封 松平大和守基矩室
二 宗 對馬守義方室
三 酒井讚岐守忠音室
四 松平豐後守資訓室
五 振四尾大進八橋皆天
六 莊重 全之助 天
七 吉三郎 夫

初有馬宮内則故養子
玄蕃頭從四位下
實永三年十一月十九日叙任
同五年十一月十八日侍從
享保十四年七月六日致仕
元文元年十一月九日剃髮歸
唯翁
同三年四月朔日卒六十五歲
法名梅巖院唯翁道秀

則矩 ツ子 岩松

實永五年七月七日卒八歲

某 大次郎

實永五年十一月廿三日卒三歲

女子三人 一夫

許家松平又三郎忠亮早世

女子

實石野筑前守乾室
許家兵庫頭氏想

則如 子 長十郎

享保三年五月五日卒十歲
女子四人 皆天

女子十人

養實公播磨守照憑女
佐竹修理大夫義堅室
稻葉能登守重通室

女子三人

許家丹羽若狹守高曆早世
全義代二人 皆天

女子

許家土井兵庫頭利制
嫁於稻葉守重通室

賴謹 子 左近 初則昌

中務大輔從四位下
享保十年十二月十八日叙任
同十七年十二月十八日侍從
安永元年十二月十五日左近衛
權少將
天明三年十一月廿三日卒七
十二歲 享十月廿三日

賴貴 多力 定五郎

從四位下上總介
寶曆八年十二月十八日叙任
後改中務大輔
天明元年十二月十八日侍從
文治三年十二月廿八日進左少將
文化九年正月廿三日卒年六十七
法名大泉院海通光

賴董 多力 藤三郎

天明六年十月廿三日卒九歲

賴善 定之丞

寬政五年三月廿五日病薨
文化三年八月廿三日卒年三十八
法名胡心院

法名大慈院圓山道通

女子三人

皆夭

某

女子三人

一人夭

元文三年六月十五日卒十九歲

女子三人

律輕出羽守信着室
曾井隱岐守茲延室
二人夭

某

多吉郎

寶曆六年五月三日卒十二歲

女子二人

皆夭

女子三人

有馬藏部照長妻
一人夭

某

某

女子

賴寧

某

女子二人

某

女子

有馬左京則明養子 早世
有馬左京則明養子
赤松菊八 吉承 吉郎
文化三年十月四日没廿六
桂
有馬左京則明養子

賴端

赤松東作
長作

從四位下 上德介
寬政五年十一月廿六日叙任
文化元年十二月廿二日卒廿六
法名覺明院

賴體

重八

寬政八年十一月廿六日卒廿六。子惠信院

女子三人

正一人 夭

某

赤松護助 早世
為實有馬主膳純次養子

女子三人

備後守氏保室
一人夭

賴文

五八

享和三年二月廿三日卒十九歲 奉信院

豐乾

萬菊 内匠

實小出修理亮吉重三男
伊豫守從五位下
寬文八年十二月廿七日叙任
貞享元年七月晦日配流
筑後國久留米
元禄五年五月九日没
同十三年十二月廿八日死五十
五歲
法名寒江院雲浦良雪

豐胤

萬菊 采女
修理
後英致

貞享元年七月晦日配流
久留米
元禄五年五月九日没後
小出權之助英直養子

賴德

新太郎

從四位下侍從兼上德介
文化三年二月廿七日加藤孫承祖七年十二月廿六日叙任
九年三月十八日嗣封四月五日改去舊頭
天保元年十二月廿六日任左少將
弘化元年四月廿三日卒年四十八
法名大臣院藤原道温

賴美

赤松景作 喜子郎
後與建
細川長門守與德養子

女子

春 松平彈正大納言敬室

一知

赤松滝之助 周防刑部 飛騨
岸左膳温知春子

女子

益 丹羽左京大夫長富室

賴次

初賴泰

母
東照宮御養女
實松平源七郎康直女

吉政

清兵衛

實建部内匠頭光重三男
寬文十二年六月十一日卒七十
六歲

義景

清兵衛

實紀伊殿家人正木立郎右衛門
為永二男
元禄十年致仕

加賀守從五位下
寬永五年正月朔日叙任
後改伯耆守
同九年十一月十六日配流抗後
國久留米
同十二年十一月十日赦
慶安二年三月九日死三十
九歲
法名宗無

法名了真

享保七年九月三日卒七十
八歲
法名自性院

氏倫

四郎右衛門

兵庫頭從五位下

氏久

六左衛門

實紀伊殿家人渡邊主水

光隆

主計

氏恒

弥平次

實堀大和守親藏四男

實建部丹波守政周十一男
寬延二年歸之其家

享保元年七月廿二日叙任
同享保十二年十二月廿二日卒六十二歲
法名法源院

某

長八

早世

泰綱三男
備後守從五位下
享保十九年十二月十八日叙任
寶曆九年六月二日致仕
明和八年二月廿六日卒
七十三歲
法名覺源院

女子四人

式部少輔從五位下
寶曆九年十二月七日叙任
同十年二月廿四日卒二十二歲
法名正源院

女子

紀伊殿家人
淡輪新兵衛重方妻離別

某

弥平次

早世

某

幸次郎

黑田豐前守直亨室
堀石見守親賢継室
春其室院養女
二人早世

某

大助

早世

氏房

赤松常吉

氏房 フカ 常吉

實氏久三男
安永二年閏三月廿日卒十
七歳
法名亮雲玄院

氏恕 ヨシ 恕吉

實城大和守親長二男
兵庫頭從五位下
安永八年十一月十六日叙任
天明三年九月廿日卒二十
三歳
法名孔昭院

氏保 タカ 直次郎

實牧野駿河守忠寬二男
備後守從五位下
天明三年十一月十八日叙任
同七年六月廿日改能登守
寛政二年七月廿九日卒二十九
法名龍秋院

久保

女子

揚次郎 六左衛門
從五位下 備後守
安永二年九月廿三日嗣封六年三月廿日叙任
文化二年七月廿日卒年三十六 龍光院

氏貞

女子三人

元之進 一鶴之助 六左衛門
從五位下 兵庫頭
文化二年九月廿日嗣封文政十年三月廿日叙任
大保四年正月廿七日卒年二十五 本海院
一人天
九鬼或許少輔隆都室
津輕越中守順承室

氏郁

女子

邦九 満丸
從五位下 備後守
天保四年三月廿日嗣封十五年四月十七日
從五位下 野御前即吹上
弘化二年十二月廿六日叙任
文化二年十月十七日卒年三十三歳
号真源院

氏弘

邦九 天
鈴之助 夫
良丸 天

銀次郎 兵庫頭
從五位下 備後守
安永二年十一月廿日嗣封十二月廿日叙任
文化二年七月廿九日卒年二十九
法名龍秋院

有馬

備後守豊範

侍從兼中務大輔源頼元ハリとの中務少輔忠頼之
男に初名源田席とて寛文七年二月廿二日けり
又其をいふはつり兄玄室頭頼利ハ嗣子とあり
のち八年八月廿日家を治す 從五位下 叙父内直豊
範 一石石口前備後守 一石石口 十二月廿七日
頼元從五位下 中務大輔に任す 元禄八年侍從
了す じしは是より侍從 備後守 豊範 同前 源あり

この家絶へし時而も所収公せしれを元禄十年
五月相えりしはくくく多のぬ宝永二年七月廿日相え
五十二歳にゆく卒の嫡男兼右相有之福十一年月
十九日てしめりて急したれり十三歳徒四位下
筑後守小教任し宝永二年九月五日父が遺領を
賜りしはあはくく二年四月八日をすうりてし
サ一男子ありしはあはくく支族宮内別故が子虎也
則維を名てしめりしは二男に別故がまゝなり
五月

サ一日則維家つぎくくく徒四位下の玄孫なり
のりたれり元禄五年十二月侍従に任し高保十
年七月六日致仕して入り道して唯翁と號
し元禄二年四月 男子二人早世しこれハ四男左近相
種よりくくく於相種高保十一年九月朔日
めくく拜賜し十二月徒下の四位くく中務大輔に
任したれり十四年父が家ゆりて十七年れを
侍従にすし安永元年相種くく六十に及りて

公勢をこたりふりしかばお乃え途をあきて
少将り將すかゝる齡古稀をこゝ夫の三年十月
廿三日卒のそ子定五郎頼貴室暦八年十一月廿六日
すゝめゝんゝゝゝゝゝゝ十二月十八日從五位下に叙
しゝ縁々に任じ夫の三年の侍從ありたれども
四年正月廿二日父が遺領をそめし時年
侍縁も源豊範ハ中勢少輔忠頼が長子実々小出
修理亮藤原右重の二男りゝ忠頼が外甥あり

寛文八年八月廿一日中勢大輔頼元父が家つぎ
時筑後国沙弥郡松崎の地をわりりそめし石万石
乃を從五位下のそに任じ貞享元年七月晦日公方
侍賢と雄陸源かゝりり時豊範もそ五年に坐
しゝ領地没収せゝる嫡子兼女豊胤もそに頼元
にめゝあつゝそ久為采の地り頼長せり

元禄五年正月九日中勢
十三年十二月廿二日

玄庫の源氏倫ハ伯耆も頼次が四代乃孫也頼次々

[Faint vertical text, likely bleed-through from the reverse side of the page]

山内

藤原忠義 タカヨシ

忠豊 トヨ

女子五人

本多中務大輔政長室
一人早世
真田伊賀守信直室
山内次郎衛門一輝妻
一人早世

女子三人

京極備中守高豊室
阿部對馬守正邦室
一人早世

豐昌

國松 筑後

筑後守從四位下
明曆三年十二月廿七日叙任
寬文五年十二月廿八日從後守
同九年十二月廿五日侍從
元禄十三年九月十四日卒六十
歳
法名覆載院含弘周德

豐房

民部 初兵助

實山内次郎大夫一俊嫡男
民部大輔從四位下
元禄二年十二月廿七日叙任
同十三年十二月廿一日侍從改
土佐守
寶永三年六月廿七日卒三十
五歳
法名天驛院俊山恭雄

豐隆

鳥居右京 楮右衛門 初名松之助 初豐長

實山内次郎大夫一俊二男
土佐守從四位下
寶永三年十二月十九日叙任
同五年十二月十八日侍從
享保五年四月十四日卒四
十八歳
法名龍泉院靜國鐵心

女子

豐房室

豐治

辰之助

元文二年三月七日卒三歳

某

久米千代

正徳四年十月十九日卒五歳

豐常

電千代 大助

土佐守從四位下
享保六年十二月十八日叙任
同八年十二月十八日侍從

豐敷

市正 伊右衛門 初重固

實山内主馬規重長男
民部大輔從四位下
享保十年十二月十八日叙任

豐雅

松之丞 國松 初名善 恭豐

從四位下筑後守
明和元年十一月十三日叙任
同五年正月廿五日改土佐守

豐根

山内金之進 直九

延享元年七月十五日卒五歳

豐儀

幸次郎 幾安

延享元年五月廿一日卒七歳

女子二人

松平大和守朝矩室
佐竹右京大夫義敷室

同十年九月二日卒十九歲
法名旭光院天岳良英

同十二年十一月廿一日侍從
同十四年閏九月廿三日致仕佐守
明和四年十一月十九日卒五十九歲
法名大昌院大德承真

同年十二月十八日侍從
寬政元年八月三日卒年四十一

某

山内萬之助 早世
氏松

某

鳥居岩九 早世

女子

上杉彈正大彌宗憲室

某

山内勝三郎 早世
正次郎

女子

小笠原伊豫守忠苗室

豐泰 鑿次郎

式部豐彦產養子

女子

早世

某

山内吉五郎 早世

女子

豐敷室

某

山内重之助 早世

女子

早世

某

山内桃之助
早世

豐策

邦之丞

天明七年三月 從信下家後守
十月 日改土佐守
文保五年二月 日侍從
天保三年八月 日在任
天保五年五月 日在任

女子二人

上杉直九顯孝室
一人早世 日在任

豐敬

山内登三郎

天保十年六月廿九日没年六十一

某

山内景之助
早世

忠直

女子

板倉越中守重清室

直明

虎之助
早世

癸室三年八月廿七日夭七歲

女子

早世

豐次

辰千代觀之助
國助

元禄二年八月十一日卒十三歲
法名大應院持册英奇

女子

早世

豐定

豐明

九郎太郎國助
大膳
初直久

豐定之卒嗣子豐次幼弱
故豐明併領其地
大膳亮後五位下
延寶五年閏十二月廿日叙任
元祿二年八月三日配流遠江
國濱松
同五年五月赦
寶永元年正月十七日死六十
三歲
法名陽法院義國亮節

女子

杉浦外記正英妻

豐成

九郎太郎
初直清 豐勝

元祿二年八月三日配流遠江國
濱松
同五年五月赦
延享四年七月晦日死七十三
歲
法名大膳院安叟諸樂

豐清

大次郎

式部之豐養子

某

慶三郎 早世

某

直七郎

早世

某

彦十郎

早世

女子

早世

某

文太郎

早世

女子

早世

豐産

時五郎

松助

某

水野直之丞 早世

女子

主膳豐清養子

大島兵庫義里妻

豐茂

善五郎 兵部 早世

尹信

幸次郎 主計
初豐武 武信
南部主計勝信養子

豐則

梅助

早世

豐房フサ 萬之助 早世

女子三人

一人早世
大森三次郎賴隆妻
石河大學自名妻

豐清トヨキヨ 大次郎 主膳

實大膳亮豐明二男
寶曆二年八月三日卒八十歲
法名大龍院德善道敷

女子二人

根未新右衛門正國妻

之豐トヨ 梅助 式部

實土佐守忠義五男
元福四年四月廿九日卒五十
五歲
法名本源院心翁道徹

一安イツ 松助 権右衛門

遠江守從五位下
慶安四年八月十六日叙任
萬治三年六月四日卒二十
五歲
法名義徳院仁仲智寛

一人早世

豐救トヨスク 大次郎 早世

女子

青木齋宮真奮妻

某 傳三郎 早世

女子二人 共早世

女子二人

許嫁堀田孫七一早世
有馬内膳則満妻
一人早世

某

千代之助

早世

豊穀

一太郎 主膳

女子

早世

豊秀

時五郎 早世

豊産

松助 賴母

式部

豊泰

暨次郎 帶刀

豊武

松太郎

實九郎太郎豊成四男
遠江守後五位下
天明元年十二月十二日叙任
同三年五月廿一日致仕
寛政三年十月廿六日卒
七十歳 法名古松院千明泉

實土佐守豊敷五男
攝津守後五位下
天明三年十二月十八日叙任
享和三年七月六日卒三十九
法名大慈院寂翁玄定

豊保 新三郎
文化七年七月十九日卒二十

女子 天

某 慶之助 天

女子三人 永井権一即直應妻 一人天

山内 賜松平

附 大膳亮豊明

侍従兼公佐守藤原豊昌ハ對馬守忠豊一の嫡男也

り明暦二年二月十八日〜〜〜〜〜

あ〜〜〜〜〜

任〜〜〜〜〜寛文九年六月十日忠豊が致仕

乃〜〜〜〜〜

此〜〜〜〜〜

〜〜〜〜〜

次郎左一俊が嫡子として其の家をつかひありし
か之福二年二月豊昌が女として嗣とあり

十二月後四位下り氏部大輔に任じ後云依ちありし其
又忠義の例より

豊昌トヨチカ身ミ満ミりし年乃十二月十三日送領

を賜りし十二月侍従に任じ仁宝永三年六月

二十五歳にトヨチカ卒スのトヨチカ豊房トヨチカ仁厚にして國民を以てトヨチカ侍

武社考を編纂し梓にトヨチカ志シすも子コふりトヨチカられ身ミをトヨチカ長ナガ系ケイ

豊長トヨチカを嗣とす豊長トヨチカは八月二日家終て

十二月十九日後四位下りし依ちありし

五年十二月侍従にすし享保五年四月

十四日卒し四十八歳なり大御豊常トヨチカ去年四月廿八日

五月廿七日又が送領を

後云依ちありし其又忠義の例より

八年の十二月侍従にすし

十年乃九月二日と十九歳に

十月廿二日山内自馬トヨチカ重シゲが長子市山

一安カサハ右依カサ忠義コシの四男シヨウありて安永二年十月廿日

〜〜〜〜〜
安永二年八月朔日

〜〜〜〜〜
文祖の教功おなほ

〜〜〜〜〜
松平信直の信徳

八月十六日教書して明暦二年の冬信直とあり

信米シノメ信子シノコを賜タマフふ前編にハ父の忠義コシよりわらう

〜〜〜〜〜
之豊トヨ家イヘ法ホウ法ホウ之豊トヨ十トウと忠コシ心シン

義コシの五男ありて元禄四年に身ミすス〜〜〜
奴ヌ四月廿九日

子コふフりリ〜〜〜
大膳亮豊明トヨアキラの二男主膳豊法トヨホウ

をヲ屋ヤ〜〜〜
豊法家トヨホウイヘつツ〜〜〜

不明フメイ〜〜〜
十一月七日米地メチをヲ受ウケめメ〜〜〜

〜〜〜〜〜
宝曆六年にシテせ

ぬヌ八月三日ツキノミチノヨ豊産トヨウデ〜〜〜
武部タケベとシいハ〜〜〜
豊法トヨホウ

〜〜〜〜〜
五年ゴネン九月クニノキ〜〜〜

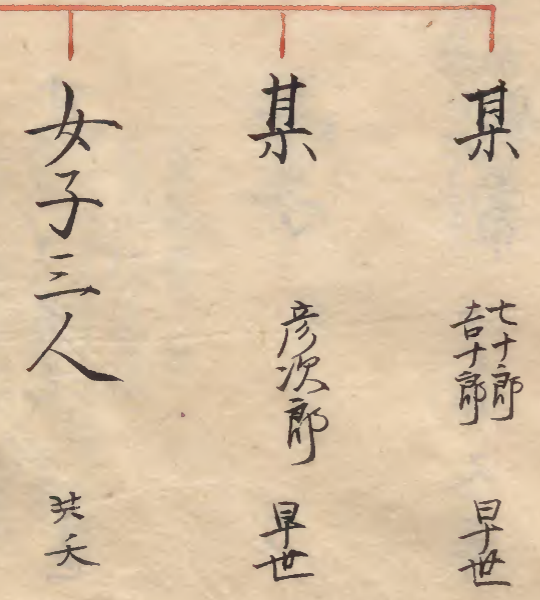
〜〜〜〜〜
宝曆六年十一月タケノキ父チチが遺領ユイレイをヲ〜〜〜

〜〜〜〜〜
安永九年十二月廿一日宗家ムネノカミ右守豊産トヨウデ

康米一万石をわくらあ〜
二弟地をありて一万石を依す
 其のち叙爵〜
 天明三年五月廿一日
 病り〜
 致仕と〜
 二子男子二人みふ早
 世〜
 依ち〜
 敷か五男若力豊泰を
 長し〜
 嗣と〜
 豊泰天明元年三月十日初
 ん〜
 お明〜
 二年あを〜
 十月十日
 叙爵〜
 按付〜
 不任す〜
 叙

堀

管原親昌



某

菊丸

早世

女子

早世

親負

吉丸 又七郎

親常

千之助 又七郎

親賢

長吉

玄蕃

周防守從五位下
萬治三年十二月廿八日叙任
貞享二年十月廿四日卒
四十二歲
法名隆松院真叟紹立

女子二人

實近藤主稅重信嫡男
美作守從五位下
元禄元年十二月廿五日叙任
同十年三月廿七日卒
二十四歲
法名方林院性室道寬

女子

森和泉守長直室離別

實塚外記親興長男
大和守從五位下
元禄十一年十二月廿五日叙任
後改石見守
正德五年十一月廿八日卒
三十二歲
法名東明院規俊宗顯

某

右近

早世

女子

夭

某

三之助

早世

女子二人

行洞大膳自因妻
有馬備後守氏之室

親庸

一學

親藏

興之丞

親長

久太郎

又七郎

若狹守從五位下
享保四年十二月十八日叙任
同十三年七月十三日卒
二十二歲
法名寬祐院龍真義定

實親賢二男
右衛門佐從五位下
享保十三年十二月廿日叙任
後改美濃守大和守
延享二年二月十八日卒
二十四歲

從五位下大和守
寶曆三年十二月十八日叙任
安永八年四月廿五日叙任
右兵衛尉
文化五年六月廿日卒
七十歲

親藏タケ

興之丞

二山殿
法名禪林院大道休也

女子

戶田淡路守氏之室後嫁
石川阿波守總恒

女子

近藤譜岐守政方妻後嫁
藤枝帶刀教忠

親由

主膳 早世

為明

主水

座光寺喜兵衛為和養子

氏恒

弥平次

有馬備後守氏久養子

親褒

數馬

掘數馬親數養子

某

斧丸

京都佛光寺内
長性院養子

女子

小笠原兵庫長孝妻

親表

主稅

安西六郎右衛門政長養子
後歸

女子

竹内彈正大綱惟久室

女子二人 松平太前在衙門政業專一人 夫

季敦 全十郎 主計 家臣寄當勤右衙門良頭養子

某 嘉内 早世

常郷三藏

遠藤源五郎常住養子

親忠 忠藏

山城守位五位下 安永七年十一月十六日叙任 後改大和守河内守 天明四年七月九日卒二十五歲 法名孝悌院仁愛教忠

親幸 幸之進

實親長四男 天明四年九月二日封實親三年正月六日叙任 八年四月廿二日卒年三十

親憲 鐵三郎 又七郎

實親長五男 天明八年八月五日生 實親八年五月十二日封幸和二年正月廿日叙任 文政十三年十月廿五日為少老 天保十三年七月朔日為御用人 十二月十五日叙四位下 十四年六月廿二日加千石 十二月廿二日為老中 格弘化元年六月十三日為大中 侍從 二年四月廿九日轉藏 九月二日削封一石 隱居 嘉永元年十二月廿日卒年六十三

氏怒 怒吉

有馬常吉氏房養子

親義 鐵三郎

文化十一年正月八日生 文政十三年二月廿日叙任 天保十三年六月十三日改左近將監 弘化二年十二月十三日改左近將監 慶應三年四月九日改左近將監 慶應三年四月九日改左近將監 明治元年三月七日叙任

親廣 三之丞

宗隆 親廣 嘉永二年三月十四日生 明治元年四月八日叙任

某 三之丞 早世

某 博之丞 大

某 鍾四郎 大

女子二人 一人 夫 酒井新三郎忠職妻

某 鏡若 天

女子三人 水野日向守勝進室離別 末津監物政隆妻 一人 夫

親幸 幸之進

遠藤主膳胤富室

女子三人

德永久米三郎昌候妻 秋月式部種備室 許家加納英次郎久敬早世

女子二人

英天

親密 某 鍊三郎

女子三人

池田主水頼元妻
有馬兵衛大輔唐壽妻

長富

鈔藏 因幡守

某

定次郎

天

某

銅太郎

天

女子

同部五郎兵衛

専離別

頼功

九終郎

土岐山城守頼潤養子

養女三人

生達藤原守胤孫女
最上末子助義和室
宗 秋田山城守孝季女
土岐伊豫守頼宗室
安同部因幡守長富女
福生出羽守正行妻

某

鍊之助

天

女子三人

遠藤但馬守胤孫室
親義養女
一人 天

堀

周防守藤原親貞ハ父作也親昌ハ嫡男也

前編に親昌ハ父親良

の母方につきて氏ありたれど管承ありありとあるをその傳ふるハ
えね元年大坂本をりりく乃らありて管承氏ありありとある
神も寛永系ありり万治二年乃ら親貞
志多しれらとありり

但し延寶元年九月十一日家つぎ
任は因幡 自喜

二年一平の
子ふりりりばと後主税

重信ハ長子子ハ親常を子ハ
重信ハ長子子ハ親常を子ハ

常ハ父の重信が
常ハ父の重信が

子又七郎親長ナカ四月十二日父乃送行を了りて以室曆
元年二月十日より先づ一先奉りたれり其二年
叙爵して大和守に任じ安永八年四月廿六日四十歳
に之致仕す石山御所長男忠茂親忠ナカ安永四年三月
十日より先づ一先奉りて其二年
十二月後五位下山城守り叙任し後大和守又同ある
と父よりつぎ天明四年七月廿二日あると
卒のふりりきれば忠茂進親ナカ十一歳に

あはれ嗣とありて其と九月二日送行を了
り

Handwritten text in vertical columns on the right page, likely a genealogical record or official document. The text is written in a cursive style (sōsho) and is mostly illegible due to fading and bleed-through from the reverse side.

堀

藤原直政

直寄

直時

直吉

女子

成瀬隼人正幸妻

直道

主水 攝津守後五位下
同五年閏正月依病籠居
享保十二年五月十九日卒三十七歳
法名峻機院隨嚴宗流
實永三年十二月十九日叙任

直利 左京

左京亮從五位下
寬文十二年十二月廿八日叙任
實永四年十二月廿四日昇後守
正德元年九月十六日致仕號
獨鋒
享保元年七月十日卒五十
九歲
法名禪慧院義天保壽

直為 初直治 直長

左京亮從五位下
正德二年十二月十五日叙任
元文五年二月廿日致仕
同年三月六日改修理
寬保三年三月廿三日卒四十
六歲
法名鐵翁院祖透儀關

直亮 直太郎 三十郎

丹波守從五位下
元文五年十二月十九日叙任
天明元年九月十九日改丹後守
同五年十月廿九日卒七十一歲
法名松巖院俊德日休

直英 圖書

長門守直佑養子

利起 主計

酒井主殿忠丘養子後歸

女子

福原内匠資祀妻

女子

許嫁備前守直宣直宣卒嫁井上遠江守正意
正意卒嫁松平孫大夫勘滿

直方 莊次郎

直泰 教員

安永八年六月二日卒四十
二歲
法名淨禪院觀空了夢

女子 直教養女

信義 左近 助十郎

松平安房守昌信養子

長致赤子 大次郎 集人
壹岐守

淺野河内守長壽養子

女子

淡路守直堅室

直行三子

喜内

堀三六郎直昌養子

成孝才力

兵庫

本多大膳將成養子

直教三子

三十郎

左京亮位五位下

天明五年十二月廿八日叙仕
寛政五年八月七日改再叙守
同七年十二月廿六日叙仕後号白翁
同九年九月十七日卒年五十一
法名照淨院堂岸真隆

直重シカ

直升シカ

實直泰女

直輝シカ

女子

直方カク

莊次郎 三十郎

女子

實直泰男

女子

早世

直富トク

伊織

早世

直俊トシ

宇源次 主殿

依病籠居
享曆二年二月 死

正美 喜右衛門

甲斐文莊喜右衛門正永養子

直佑 松之助 初直栴

長門守從五位下
寛文十年十二月廿八日叙任
享保四年十月廿五日致仕
同六年六月廿日卒六十七歳
法名秋光院智海船樂

直英 圖書

實左京亮直利三男
淡路守從五位下
享保四年十二月十日叙任
同廿年二月廿三日致仕
元文四年四月三日薨周翁
明和四年八月廿七日卒六十
九歳
法名春心院惠山了覺日應

直寛 八五郎

長門守從五位下
享保廿年十一月十六日叙任
明和五年九月廿日致仕
安永六年九月廿日卒六十歳
法名泰了院正隆真覺日運

女子二人 直英室 一人早世

女子二人

一人早世
立花和泉守長熙室
直孝 熊之助 帶刀 號虛悠

直著 大膳

飛騨守直喜養子

某 又四郎 早世

女子 早世

正方 宣助

内藤主水正甫養子

女子

安藤彦四郎直元妻

某

堅五郎

早世

直堅

英五郎 圖書

直郷

千之助

直皓

初種幸

内藏

淡路守從五位下
明和五年十一月十八日叙任
安永八年十一月朔日卒四十
一歳
法名天祐院活巖紹機

實直寬三男
中務少輔從五位下
天明元年十二月十八日叙任
同三年六月廿四日改長門守
同四年閏正月十日卒二十七
歳
法名觀智院春山直寬日了

實立花和泉守長熙七男
從五位下内藏頭
天明五年十二月十八日叙任
文化十一年五月廿四日叙任
同十一年七月十三日卒五十六
法名龍淵院德範義明

女子二人

樽辨之助泰高妻
平野中務長純妻

長恒

寬次郎

市橋大和守長能養子

女子一人

女子二人

一人早世
水野兵庫忠候妻離別
嫁細井隼人勝村

直郷

千之助

直之

直景

女子

早世

直良

三郎四郎三右衛門

飛驒守從五位下

直宥

三四郎 三右衛門
式部 初直虎 直勝

式部少輔從五位下

直央

三四郎 内匠
初直時

飛驒守從五位下

寛文八年十二月廿七日叙任
元禄四年二月十五日卒四十九歳
法名總持院等嶽宗與

直方

三五郎

今堀縫殿直芳祖

直定

三六郎

堀五郎左衛門直延養子

寶永六年三月七日叙任
正徳元年六月八日卒四十七歳
法名道樹院廓然宗白

女子

早世

直上

長吉 久五郎

本多彦兵衛壽宣養子

女子

早世

增順

岩丸 民部卿

山城國八幡別當岩本坊

正徳元年八月十八日叙任
享保五年四月廿九日致仕
寛保二年六月廿日卒五十五歳
法名本空院五山宗温

女子

早世

直意

鍋之助 喜内

堀三五郎直元養子

某

金次郎

早世

直恒

萬之助

寶永五年五月二十日卒

某

小坊

天和三年七月廿日卒

直衡

幾十郎 監物

大澤出雲守基珍養子

女子

早世

直恒

萬之助 式部

實直宥四男

遠江守從五位下

享保五年十二月十八日叙任

同十五年十二月十日卒三十一歳

法名觀功院普岳宗英

女子

早世

直舊

直四郎

實直央二男

出雲守從五位下

享保十六年十二月廿三日叙任

後改式部少輔

寛延元年六月廿日卒三十一歳

法名俊良院顯外宗忠

直喜

鉦五郎

實直恒二男

飛騨守從五位下

延享四年十二月十九日叙任

寶曆元年六月廿日卒二十一歳

法名懿徳院徽山宗猷

直舊

直四郎

女子

土岐伊豫守頼熙室離別

女子

早世

直喜

鉦五郎

直述

序之助 平治
直右衛門 早世

女子

早世

舊氏

駒之助 早世
與一郎

家人
松井弥一兵衛氏知養子

直嗣

左吉 平次
久五郎

本多主膳榮文養子

女子

武田越前守信村妻

女子

本堂新三郎親常妻親常卒
嫁近藤藤登助壽用

直著

千之允 大膳

直宣

直一郎

著朝

千之丞

實淡路守直英三男
大膳亮從五位下
寶曆元年十二月十八日叙任
明和五年四月廿一日卒三十八歲

備前守從五位下
安永七年十二月十八日叙任
天明元年八月十日卒二十歲
法名天倪院啟道宗佑

實直著二男
式部少輔從五位下
天明二年七月十八日叙任
寶政四年十月三日叙任後藤守
文治十二年十一月廿四日卒五十二歲

靱負直為ユキ宝永五年四月廿八日

いせ正徳元年父が致仕の日所領を直為とす利三思

兄の信は直道宿りよりて義をたぬども二年従五位下

左京亮に任じ元文五年二月廿日致仕す寛保三年二月廿三日

卒年四十子直太郎直亮スカ享保十八年九月

元系より父がゆかりをうき家をつぎ致仕

て丹波より任じ後丹後七十一歳より大和元年

十月廿九日身はりぬ嫡子靱負直恭ヤス宝暦四年

閏二月朔日の元永八年六月

二日父より先だらるる卒二男信義ウケリ二男長致ナカ

男直行ナラミチ五男成孝ナリタカみふ他より長とれあせらるる男

二十郎直教ナラノリをよつぎと安永八年十二月

めく元永なり天明六年十二月廿二日廿二歳

あとし従五位下に叙し左京亮に任じ直負直

恭ヤスが子二十郎直方ナラカメを屋のあとし直方同

元永六年三月十六日の

長門守藤原直依ハ肥前守直輝ガ長男ナリ寛

文九年九月六日父ガ遺命ニシテ母依德因次坂同子

十年乃々叙爵一萬石長門守トシ享保四年

十月廿六日致仕シたけりき六年六月廿六日七歳

に一卒ハ一志一多一り一は一幸一一一務一亮一直利一之一男

書直英トシ下レをレのレ女レをレあレせレ嗣トシトシ也トシ子トシ行トシ職トシ直

トシトシバトシ二トシ男トシ主トシ及トシ直トシ俊トシをトシ嗣トシトシセトシリトシガトシ痛トシ直トシ英トシ正トシ徳トシ二トシ年トシ二トシ月トシ廿トシ日トシ

トシトシカトシクトシアトシントシ系トシ直トシ依トシ乃トシ致トシ仕トシトシ日トシ始トシをトシつトシク

ホノ冬トシ從トシ五位トシ下トシ淡トシ路トシ守トシ叙トシ任トシ享

保十年五月朔八日乙卯の辰にあり十二年二月

廿一日病トシリトシシトシ職トシをトシ辞トシ仕トシ終トシリトシ享

二年致仕シトシ嫡トシ子トシ八トシ五トシ郎トシ直トシ寛トシトシ始トシをトシしトシリ

享保四年八月廿七日卒享保五年二月九歳八五郎

直寛享保十九年六月廿八日トシ始トシをトシしトシリ

父直英致仕の時ありトシ始トシをトシしトシリトシ後トシ五位トシ下

乃長つトシトシ延トシ享トシ二トシ年トシ正月トシ十一トシ日トシ大トシ妻トシのトシ辰

十二月叙爵して出守たり後武敏之文也
年六月廿一日大妻乃以少輔あり延享二年九月
朔西城の少老りりつゝ寛延元年六月廿日
三十歳少く平のそ子ナヲヨシ權五郎直壽実り
遠し直恒ツ子が子あり延享四年十一月朔初
て又系一あり叙爵して飛騨守あり
又かうせしと乃八月十三日家をつぎ室曆え
年十一月廿二日二十二歳にナヲヨシせり男子あり

ア〜ウバ一族法路も直英ナヲヒコの二男大膳直著ナヲシ
を〜〜後とせび〜〜成ナ〜〜に〜〜あり
七月遣信を〜〜十二月後五位下乃大膳亮
に任じられ〜八年八月十日大妻の以て
ひ新町五年二條の地乃ほ〜〜にあ〜〜て
乃〜〜を〜〜あり病〜〜四月廿一日山崎
大津の驛に〜〜身ほりぬ〜十八歳其の子
直一郎直宣と〜〜六月廿二日家をつぎ安永

七年十一月... 十二月叙爵
... 八月十日卒
... 著朝
... 十月六日... 著朝
... 龍...
... 少輔に任...
... 十歳

...

